

ア	ノ	テ	ー	シ	ヨ	ン
生	成	ツ	ー	ル		

for DocuWorks

— ユーザーガイド —

更新履歴

日付	更新内容
2019/8/1	<ul style="list-style-type: none"> 新規作成
2020/7/1	<ul style="list-style-type: none"> (P.41) 8 DocuWorks で起動する場合 8.1 DocuWorks のお仕事バーに追加する 手順5 例2) の「実行モジュールのパス」を修正
2020/9/25	<ul style="list-style-type: none"> (P.2) (P.13) (P.21) (P.45) 仕様変更に伴う修正 「ビットマップアノテーションのサイズ変更は DocuWorks 9 のみ可能」の説明追加
2021/4/1	<ul style="list-style-type: none"> (P.12) 6 事前準備 6.1 テンプレートファイル 「複数枚の処理対象 DW ファイルのテンプレート作成のコツ」を追加 (P.54) 10 付録 10.5 サンプルデータ 「multipage」フォルダを追加 (P.2) (P.52) (P.57) 富士ゼロックス株式会社の社名変更に伴う修正 新会社名：富士フィルムビジネスイノベーション株式会社
2022/3/1	<ul style="list-style-type: none"> (P.41) 8 DocuWorks で起動する場合 8.1 DocuWorks のお仕事バーに追加する 手順5 例1) の「実行モジュールのパス」を修正 注意書き：「実行モジュールのパスに使用するフォルダ名にスペースが使用されている場合、フォルダ名を『 』で囲んでください。」を追加
2022/3/1	<ul style="list-style-type: none"> (P.14~15) (P.23) (P.31) 仕様変更に伴う修正 定義ファイル作成でのアノテーション設定で、QR コード設定方法にテンプレートサイズモードを追加。
2023/2/28	<ul style="list-style-type: none"> (P.2) DocuWorks 9.1.5 に対応 Windows8.1 を動作環境から削除

目次

1	はじめに	1
2	動作環境	2
3	インストール	3
4	ご利用手順	5
5	ライセンス認証	6
5.1	ライセンスを認証する	6
5.2	ライセンスを解除する	8
5.3	PCが壊れた場合のライセンス認証解除	10
5.4	ライセンスを別のPCに移動する	11
6	事前準備	12
6.1	テンプレートファイル	12
	 複数枚の処理対象 DW ファイルのテンプレート作成のコツ	12
6.2	定義ファイル	16
6.2.1	エディターで作成	16
	 「登録先設定」サンプル	21
	 付与できるアノテーション種類	23
	 QRコード設定について	25
6.2.2	手動で作成	28
6.3	CSVファイル	37
7	文書出力	38
8	DocuWorksで起動する場合	43
8.1	DocuWorksのお仕事バーに追加する	43
8.2	DocuWorksから実行する	45
9	運用上の注意・制限事項	50
9.1	注意事項	50
9.2	制限事項	50
10	付録	52
10.1	アンインストール	52
10.2	評価版について	55
10.3	動作ログ	55
10.4	カスタマーサポート	56
10.5	サンプルデータ	58

1 はじめに

この度は『アノテーション生成ツール for DocuWorks (以下、本ソフトウェア)』をご利用いただき、誠にありがとうございます。

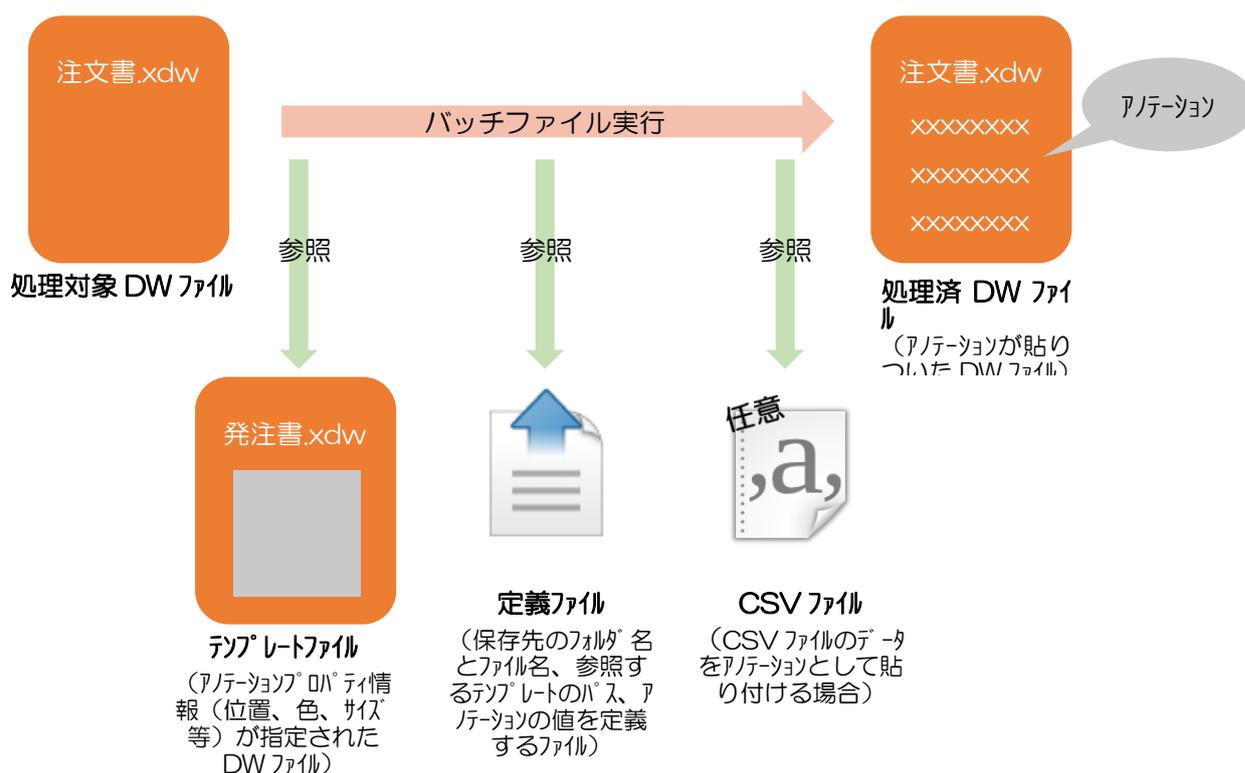
本ソフトウェアでは、テキストアノテーションが付与された DocuWorks ファイルのアノテーションプロパティ情報をもとに、指定した DocuWorks ファイルにアノテーションを貼り付けることが可能です。

既定書式の一部だけを差し替えて利用する注文書や宛名ラベル等、同じ書式で複数の書類を作成する業務の効率化を実現します。

【機能イメージ】

定義ファイルとテンプレートファイルを参照（CSV ファイルも利用する場合は、CSV も参照）し、指定した DocuWorks ファイルにアノテーションを貼り付け、指定したフォルダに保存します。

本ソフトウェアの利用により、作成が難しい定義ファイルやバッチファイルも簡単に作成可能です。



なお、本書の内容は、Microsoft Windows Operating System、および DocuWorks について、知識や操作方法を習得されている方を対象として記述しています。Microsoft Windows Operating System、および DocuWorks については、それぞれ付属のマニュアルを参照してください。

2 動作環境

本ソフトウェアの動作環境は、次のとおりです。

オペレーティングシステム	Windows® 11 日本語版 Windows® 10 日本語版 Windows Server® 2012 R2 (64 ビット) 日本語版 Windows Server® 2016 日本語版 ※ 64 ビット版では 32 ビット互換モード(WOW64)で動作します。 ※ Windows 10 は、デスクトップモードで動作確認を行っております。 Windows RT (Microsoft Surface など) での利用は動作保証外です。なお、 タッチパネル操作には対応していません。
対象ハードウェア	上記オペレーティングシステムが正常に動作するハードウェア メモリ：32 ビット版は 1GB 以上、64 ビット版は 2GB 以上 ディスク容量：インストールに約 100MB インストール時に CD-ROM ドライブが必要 (CD-ROM 版のみ)
DocuWorks バージョン	富士フイルムビジネスイノベーション ライセンス認証版 DocuWorks 8 富士フイルムビジネスイノベーション ライセンス認証版 DocuWorks 9 ※ ビットマップアノテーションのサイズ変更は DocuWorks 9 のみになります。
その他のソフトウェア	Microsoft .NET Framework 4.6.2 以上

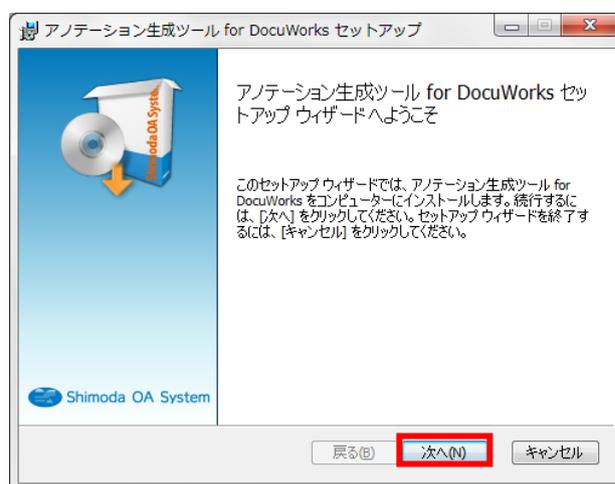
3 インストール

本ソフトウェアのインストール操作について説明します。

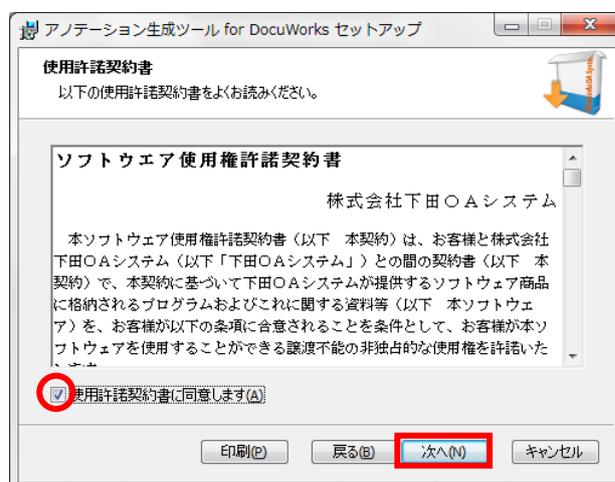


- ✓ 管理者（Administrator）権限を持つアカウントでログインして作業を行ってください。
- ✓ お使いのパソコンに Microsoft .NET Framework 4.5.2 以上がインストールされていない場合は、本ソフトウェアのインストール前に自動的に Microsoft .NET Framework 4.5.2 以上のインストールが開始されます。インストールには時間がかかる場合があります。

- ① 本ソフトウェアのインストールディスクをドライブにセットすると、セットアップ画面が立ち上がります。自動的に始まらない場合は、インストールディスク内の、「Setup_アノテーション生成ツール for DocuWorks.exe」をダブルクリックしてインストールを開始します



- ② 最初に、ライセンス条項の画面が表示されますので、「ソフトウェア使用権許諾契約書」をお読みいただき「使用許諾契約書に同意します」にチェックを入れ、「次へ」をクリックします。

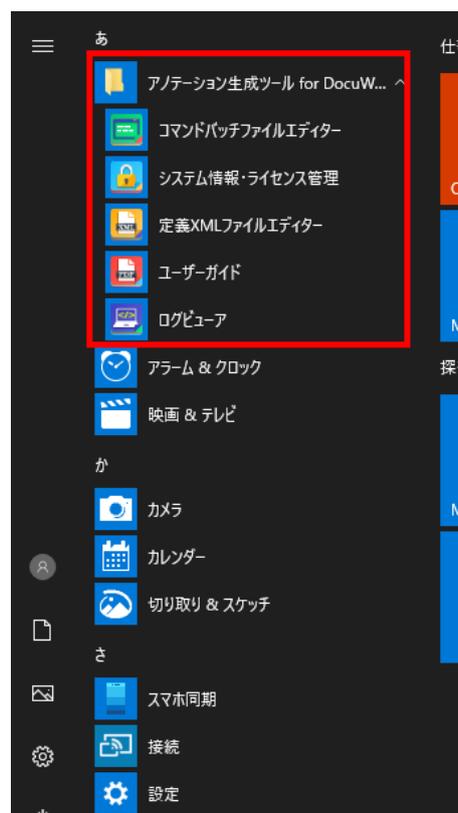


- ③ インストールフォルダの変更がなければそのまま「次へ」で進みます。
正常にインストールが完了すると、「セットアップが正常に完了しました」の画面が表示されますので「閉じる」をクリックして終了します。



- ④ インストールが完了すると、Windows のスタート画面「アノテーション生成ツール for DocuWorks」に以下の5つのメニューが追加されます。

-  コマンドバッチファイルエディター
-  システム情報・ライセンス管理
-  定義 XML ファイルエディター
-  ユーザーガイド
-  ログビューア



4 ご利用手順

本ソフトウェアは、インストール後 次のような手順でご利用いただきます。



5 ライセンス認証

本ソフトウェアにはオンラインアクティベーション（ライセンス認証）が導入されています。アクティベーションは、本ソフトウェアが弊社からお客様へ正規にライセンスされたものであることを認証する仕組みです。使用するお客様の認証キーとコンピューターを特定するための情報を、インターネット経由で登録することで本ソフトウェアをお使いいただけます。なお、認証時にお客様を特定できるような個人情報が送信されることはありません。

1 ライセンスにつき1台のコンピューターのためのライセンス認証を許諾しています。

5.1 ライセンスを認証する

本ソフトウェアを使用する前に、必ず、プロダクト ID/シリアルNo.を入力してライセンスを認証してください。

ライセンス認証を行わない場合、30日間評価版として動作します。

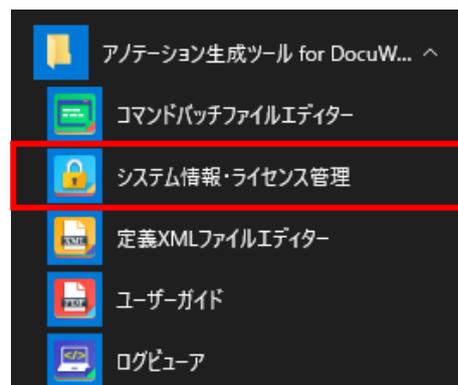
<参照>

[「評価版について」](#)

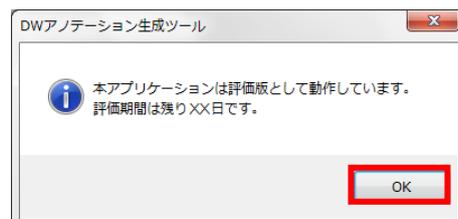


- ✓ 管理者（Administrator）権限を持つアカウントでログインして作業を行ってください。
- ✓ コンピューターがインターネットに接続されている必要があります。

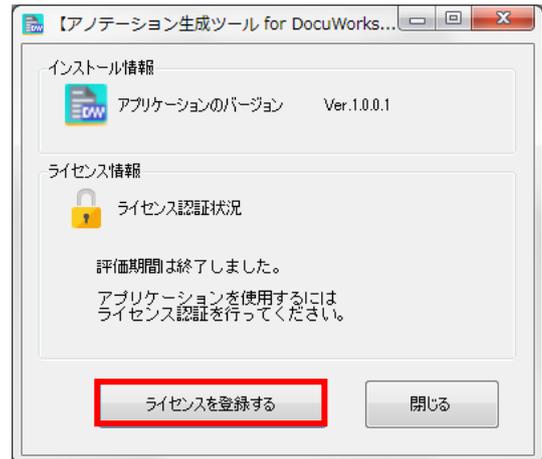
- ① Windows のスタート画面「アノテーション生成ツール for DocuWorks」 - 「システム情報・ライセンス管理」をクリックします。



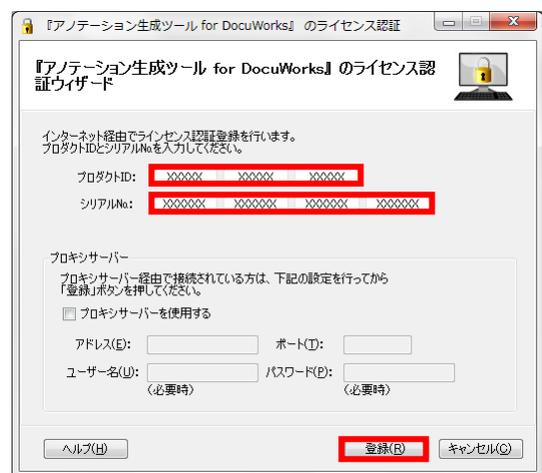
- ② 残り評価期間をお知らせするダイアログが表示されるので「OK」をクリックします。



- ③ システム設定画面が表示されますので、「ライセンスを登録する」をクリックします。



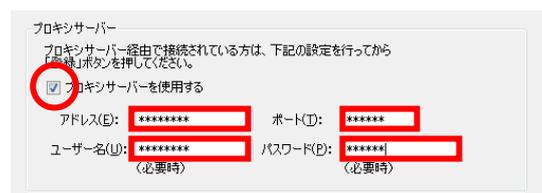
- ④ ライセンス認証ウィザードが表示されるのでパッケージ内に記載されているプロダクト ID とシリアル No.を入力して認証を行ってください。



◆ プロキシサーバー経由で接続する場合

1. 「プロキシサーバーを使用する」にチェックを入れます。
2. 「アドレス」、「ポート」、「ユーザー名」(必要時)、「パスワード」(必要時)が入力可能な状態になりますので、必要項目に入力してから「登録」をクリックします。

- ☑ プロキシサーバー設定の詳細については、ネットワーク管理者にご確認ください。



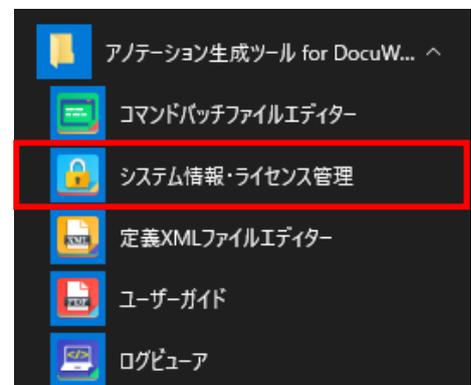
5.2 ライセンスを解除する

本ソフトウェアを他のコンピュータで使用する際は、ライセンス認証を解除してから、別のコンピュータで再認証する必要があります。ライセンスを解除してから再認証するまで本ソフトウェアは使用できなくなります。

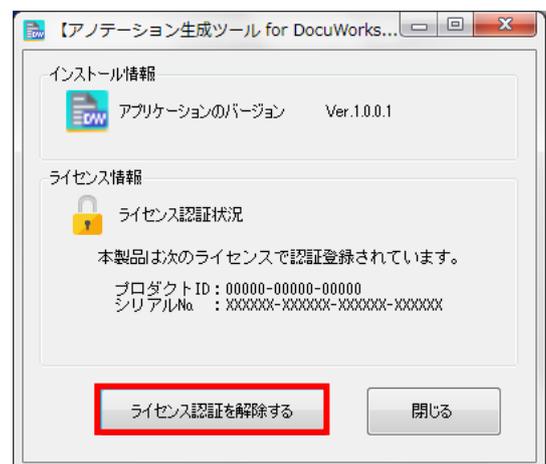


- ✓ 管理者（Administrator）権限を持つアカウントでログインして作業を行ってください。
- ✓ ライセンス認証を解除せずにアンインストールを行った場合は、再度本ソフトウェアをインストールしてから認証解除を行い、その後アンインストールを行ってください。
- ✓ コンピューターがインターネットに接続されている必要があります。

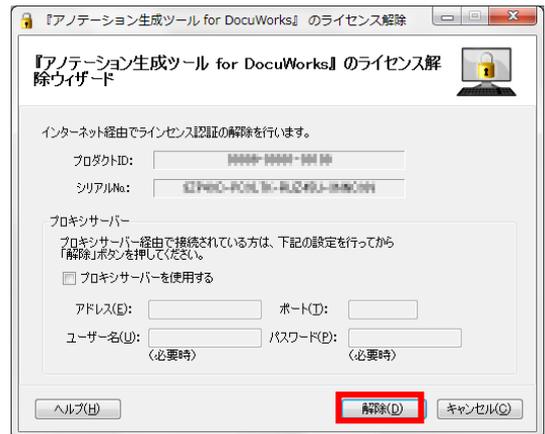
- ① Windows のスタート画面「アノテーション生成ツール for DocuWorks」 - 「システム情報・ライセンス管理」をクリックします。



- ② 「システム設定画面」が開きますので、「ライセンス認証を解除する」をクリックします。



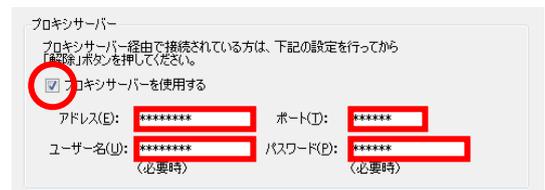
- ③ ライセンス解除ウィザードが開きますので、「解除」をクリックします。



◆ プロキシサーバー経由で接続する場合

1. 「プロキシサーバーを使用する」にチェックを入れます。
2. 「アドレス」、「ポート」、「ユーザー名」(必要時)、「パスワード」(必要時)が入力可能な状態になりますので、必要項目に入力してから「解除」をクリックします。

- ☑ プロキシサーバー設定の詳細については、ネットワーク管理者にご確認ください。



5.3 PC が壊れた場合のライセンス認証解除

本ソフトウェアのライセンスが認証されたコンピューターの破損・故障など、やむを得ない事情により「[5.2 ライセンスを解除する](#)」の手順での認証解除が困難な場合、下記 URL より「ライセンス再アクティベーション申請用紙」をダウンロードし、必要事項を記入・捺印後 FAX または郵送にて株式会社下田 OA システム（以下弊社） 再アクティベーション受付まで送付してください。

申請書をご提出ことにより、弊社アクティベーションサーバの再設定を行い、再アクティベーションを可能にします。

https://www.shimoda-oa.co.jp/dwplugins/licence_reapply.html

【専用窓口 FAX 番号】 0557-45-7225

【郵送先住所】 〒415-0029
静岡県下田市碁石ヶ浜 718-229 リゾートオフィス風未来
株式会社下田 OA システム 再アクティベーション受付 宛

- ※ 電話およびメールでの申請は受け付けておりません。
- ※ 申請用紙に申請理由を詳細に記載してください。
- ※ 再アクティベーション申請は1ライセンスにつき1回のみ受け付けとなります。
ライセンスパックご購入の場合、保有ライセンス回数分の再アクティベーションの申請が可能です。ライセンス数の確認は、インストールパッケージに貼付の「プロダクト ID / シリアル No.」シールで確認できます。（商品名下に明記しています。）
- ※ 申請理由が記載されていない場合や申請理由が不適切であると判断した場合、再アクティベーションをお受けできない場合がございます。

5.4 ライセンスを別のPCに移動する

本ソフトウェアのライセンスを、別のPCに移動する手順について説明します。

- ① 「[5.2 ライセンスを解除する](#)」に従って、現在使用しているPCでの本ソフトウェアのライセンス認証を解除します。
- ② 「[10.1 アンインストール](#)」に従って、現在使用しているPCにインストールされている本ソフトウェアをアンインストールします。
- ③ 「[3. インストール](#)」に従って、新しいPC（ライセンス移動先のPC）に、本ソフトウェアをインストールします。
- ④ 「[5.1 ライセンスを認証する](#)」に従って、本ソフトウェアのライセンスを認証します。

6 事前準備

6.1 テンプレートファイル

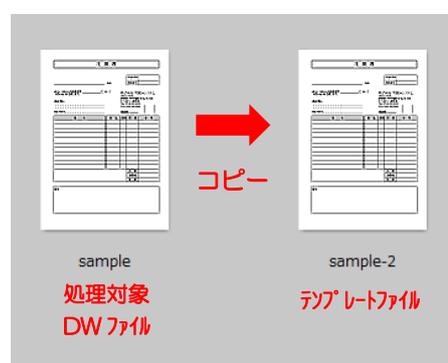
アノテーションを貼りつける位置を定義するためにテンプレートファイルを作成します。

以下に、テンプレートファイルを作成する手順を説明します。

! アノテーションを貼り付ける処理順序は、定義ファイルに記載した順になります。アノテーションを重ねて貼り付ける場合、テンプレートに貼り付けた順では処理されないで、ご注意ください。

① アノテーションを貼り付ける処理対象

DocuWorks ファイルをコピーして、テンプレートファイル用の DocuWorks ファイルを用意します。処理対象の DocuWorks ファイルとテンプレートファイルのサイズを比較して参照するテンプレートファイルを決めるので、処理するファイルと同じサイズのファイルである必要があります。



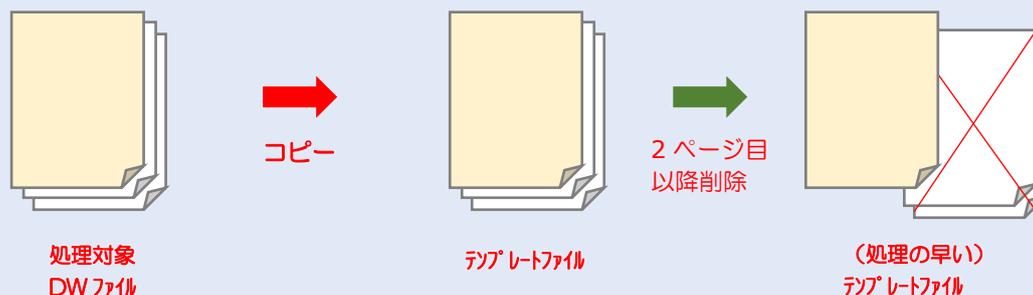
【複数枚の処理対象 DW ファイルのテンプレート作成のコツ】

アノテーション生成ツールは、アノテーション生成処理の実行時に処理対象 DW ファイルとサイズの一致するテンプレートを探します。

処理対象 DW ファイルの枚数が多い場合、処理対象 DW ファイルをコピーしてテンプレートを作成したままですと、全ページが一致するか調べるための処理に時間がかかってしまいます。処理を早くするため、アノテーションを貼り付ける最終ページ以降のページは、テンプレートファイルに含まないようにご注意ください。

Case-1.

処理対象 DW ファイル（複数枚）の先頭ページ“のみ”にアノテーションを貼る場合、2 ページ目以降のテンプレートファイルは削除してください。



Case-2.

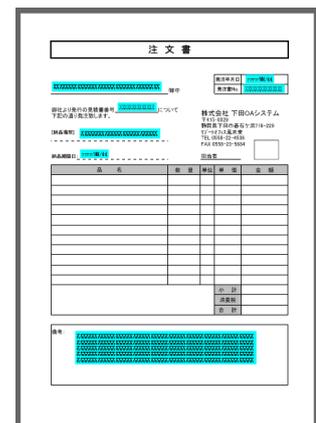
処理対象 DW ファイル（複数枚）の1、3ページにアノテーションを貼る場合、4ページ目以降のテンプレートファイルは削除してください。



- ② DocuWorks のテキストアノテーションで、テンプレートファイルにアノテーションを貼り付ける位置を定義します。

テキストアノテーション →

※使用する文字は任意です。
※サンプルは目立つように青で塗りつぶしにしています。



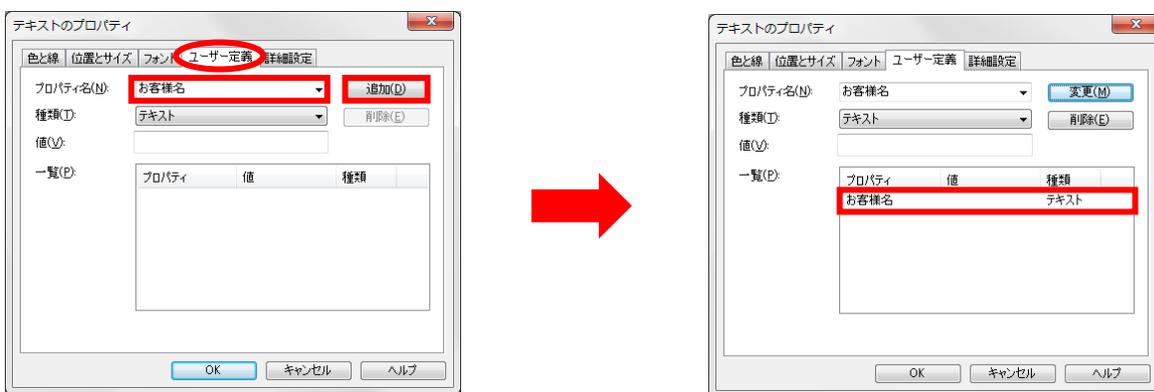
テンプレートファイル

! テキストアノテーション以外を使用しても、処理されないのをご注意ください。

アノテーションを貼り付けたら、貼り付けたアノテーションの上で右クリックして「プロパティ」を選択します。



以下の画面が表示されます。「ユーザー定義」タブで「プロパティ名」を入力し、「追加」ボタンを押してプロパティ名を設定します。



以下の項目を参考にその他の必要な設定も行い、設定が完了したら「OK」を押します。

タブ	項目	説明
色と線 (※1)	塗りつぶし	なし/ありを指定します。 ありの場合は、色も指定します。 (透過の設定は、使用できません。)
位置とサイズ	位置	アノテーションを貼り付ける位置を指定します。 (QR/バーコードを貼り付ける場合、アノテーションの左上の位置情報が保持されます。)
	サイズと回転	<p>【サイズ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 出力するDWファイルに『テキスト』を貼り付ける場合：テンプレートファイルのアノテーションサイズが反映されます。 出力するDWファイルに『ビットマップイメージ』を貼り付ける場合：DocuWorks 9 テンプレートファイルのアノテーションサイズが反映されます。 DocuWorks 8 テンプレートファイルのアノテーションサイズでの指定は不可です。 出力するDWファイルに『QRコード』を貼り付ける場合：QRコード設定の「貼り付けサイズ：自動」選択時はQR生成ツールにより適正なサイズでQRコードが自動生成されます。「テンプレートサイズ」を選択した場合は、テンプレートファイルで作成したテキストアノテーションサイズが反映されます。

		<p> テンプレートサイズでQRコードを生成した場合、完成したサイズ、形状によっては読み取り困難または不可となる場合があります。出力したQRコードが読み取り可能になるよう検証を行ったうえで使用してください。</p> <p>• 出力するDWファイルに『バーコード』を貼り付ける場合：アノテーションの位置情報（左上）だけが保持されます。</p> <p>【回転】 必要に応じて、設定します。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> テキストアノテーションのサイズ</p> <p>「テキストのプロパティ」-「詳細設定」で「文字列を折り返す」にチェックを入れると、テキストアノテーションサイズを自由に設定可能です。</p>
フォント	フォント名 スタイル サイズ 文字飾り 文字セット	フォントの設定をします。
ユーザー定義 (必須)	プロパティ名	アノテーションのプロパティ名を <u>1つだけ</u> 設定します。 <u>この名称は、定義ファイルで利用します。</u>
詳細設定	<input type="checkbox"/> 文字列を折り返す <input type="checkbox"/> 高さを自動調整する <input type="checkbox"/> たて書き 行間 文字間隔 余白	<p>必要に応じて、設定します。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> テキストアノテーションのサイズ</p> <p>「文字列を折り返す」にチェックを入れると、テキストアノテーションサイズを自由に設定可能です。</p>

※1 透過と線の設定は保持されません。

- ③ すべてのテキストアノテーションのプロパティ名の設定が完了したら、テンプレートファイルに名前を付けて保存します。保存したテンプレートのパスとプロパティ名は、次の[6.2 定義ファイル](#)で使用しますので控えておいてください。

例) テンプレートのパス

C:\¥Users¥user¥Documents¥Fuji Xerox¥DocuWorks¥DWFolders¥ユーザーフォルダ¥test¥テスト注文書_テンプレート.xdw

6.2 定義ファイル

本アプリケーションが文書出力処理をする際に参照するファイルです。ファイル形式は XML、文字コードは Shift-JIS で、主に「登録先の設定」、「ファイル名の設定」、「アノテーションの設定」を定義します。

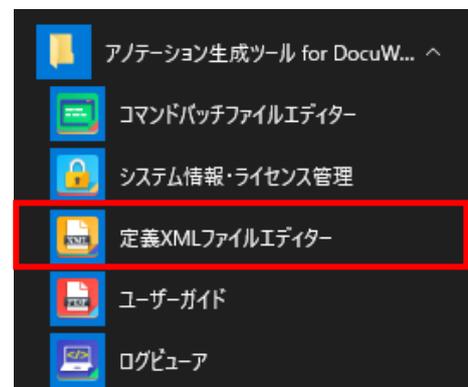
定義ファイル作成方法は以下の2通りがあります。

■[エディターで作成](#)

■[手動で作成](#)

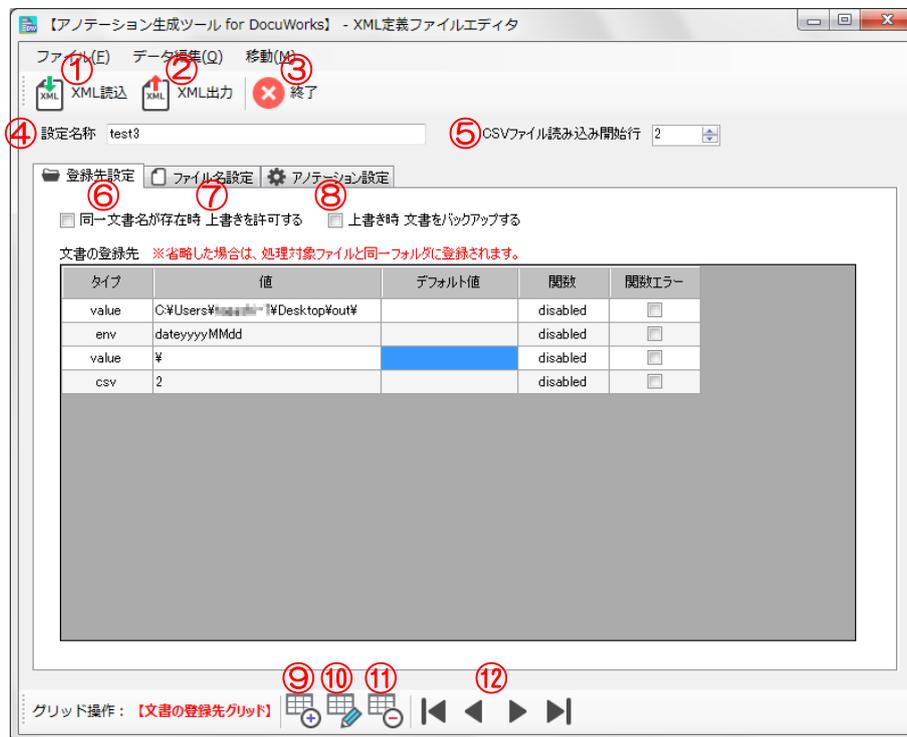
6.2.1 エディターで作成

Windows のスタート画面「アノテーション生成ツール for DocuWorks」 - 「定義 XML ファイルエディター」をクリックして「定義 XML ファイルエディター」を開きます。



【XML 定義ファイルエディター】画面構成

「登録先設定」画面、「ファイル名設定」画面、「アノテーション設定」画面の共通部分について説明します。



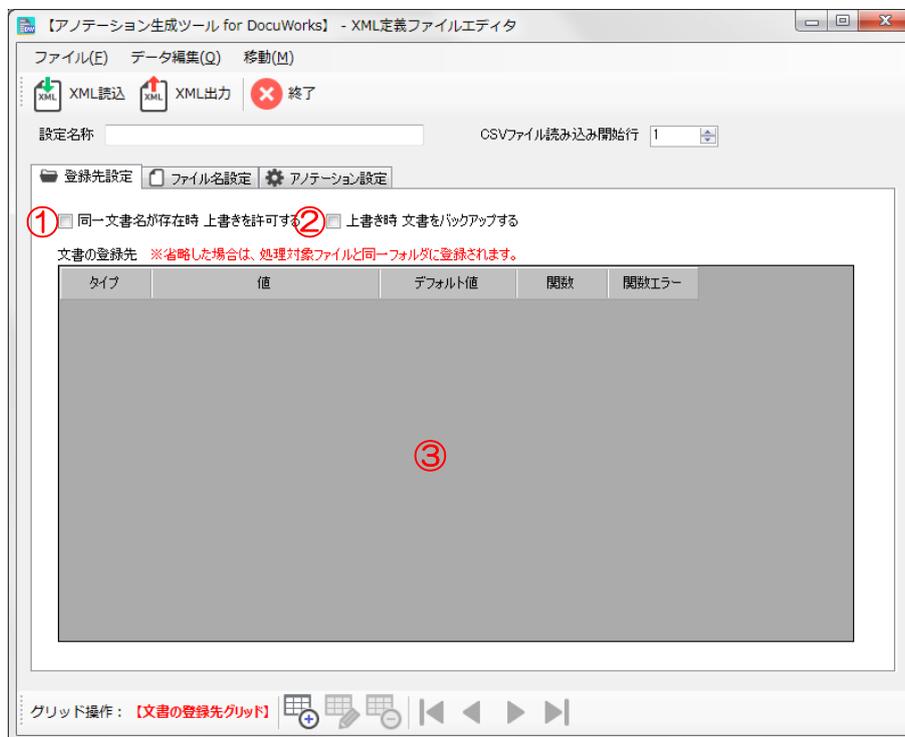
番号	項目	説明
①	XML 読み込み	既存のXMLファイルを読み込みます。
②	XML出力	XMLファイルを出力します。
③	終了	画面を終了します。
④	設定名称	設定内容に名称を付与します。新規にXML定義ファイルを作成する際は、XMLファイル出力時、ここで設定した名称でファイルを保存します。
⑤	CSVファイル読み込み開始行	CSVファイルのデータを利用する場合、読み込みを開始する行の指定を行います。 例) CSV ファイルにタイトル行が 1 行ある場合、開始行は「2」に設定してください。
⑥	登録先設定	アノテーションを付与したDocuWorksファイルの保存先を設定します。操作方法は、 登録先設定
⑦	ファイル名設定	アノテーションを付与したDocuWorksファイルを出力する際のファイル名を設定します。操作方法は、 ファイル名設定
⑧	アノテーション設定	処理対象のDocuWorksファイルに付与するアノテーションの詳細設定を行います。操作方法は、 アノテーション設定
⑨	追加	「登録先設定」画面の文書の登録先グリッド、「ファイル名設定」画面の文書のファイル名グリッド、「アノテーション設定」画面のテンプレートファイルグリッドとアノテーショングリッドにデータを追加します。(※1) グリッド上をクリックすることにより、操作が有効となり選択しているグリッドの名称が表示されます。
⑩	編集	各グリッドのデータを編集します。
⑪	削除	各グリッドのデータを削除します。
⑫	データ順入れ替え	各のグリッドのデータ順序を変更します。

- (※1) 各グリッドでは、データは複数設定可能ですので、アノテーションを付与して出力するファイルの保存先やファイル名の命名規則、付与するアノテーションを自由にカスタマイズできます。

◆ 登録先設定

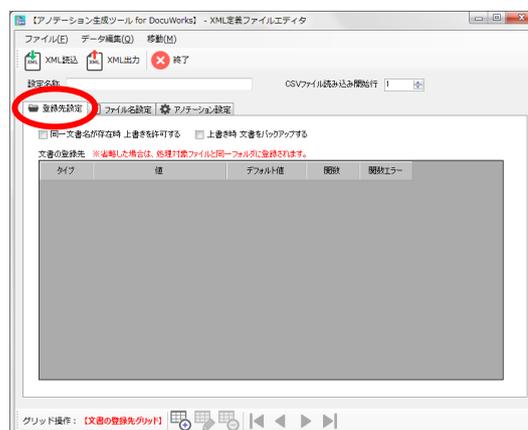
アノテーションを付与した DocuWorks ファイルの保存先を設定します。

【「登録先設定」画面構成】

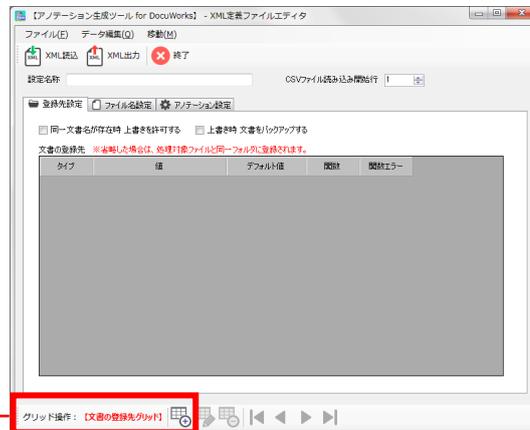
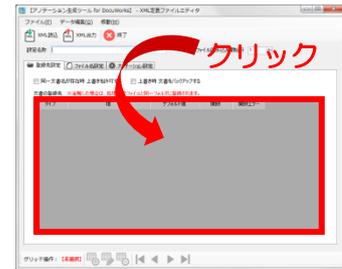


番号	項目	説明
①	同一文書名が存在時 上書きを許可する	アノテーションを付与したDocuWorksファイルを出力する際、指定した保存先に同一名称の文書があった場合、上書き保存します。
②	上書き時 文書を バックアップする	上書き保存する場合、旧文書をバックアップとして保存します。
③	文書の登録先	文書の登録先として設定したパラメータが表示されます。パラメータを複数設定することにより、保存する文書の分類や区分けが可能になります。

- ① 「定義 XML ファイルエディタ」画面の「登録先設定」タブをクリックします。



- ② 画面が開くとグリッド操作が「未選択」の状態になっているので、文書の登録先表示エリアをクリックしてグリッド操作を有効にします。



グリッド操作
有効状態

「追加」 をクリックして「登録先データ追加」画面でパラメータの設定を行い「OK」をクリックします。パラメータの設定については、「[パラメータ設定](#)」で詳しく説明します。





例)「登録先設定」サンプル

デスクトップの「out」フォルダに以下の様なフォルダ構成で登録先を設定する場合

$C:\$Users\$[ユーザー名]\$Desktop$out\$[yyyyMMdd]\$[顧客名]$

value env csv []: 任意

(固定値) (環境変数) (csvデータ)

「out」フォルダの中に作成日フォルダを作る場合、 をクリックして固定値最後尾に「¥」を追加

【設定画面サンプル】

登録先設定

ファイル名設定

アノテーション設定

同一文書名が存在時 上書きを許可する 上書き時 文書をバックアップする

文書の登録先 ※省略した場合は、処理対象ファイルと同一フォルダに登録されます。

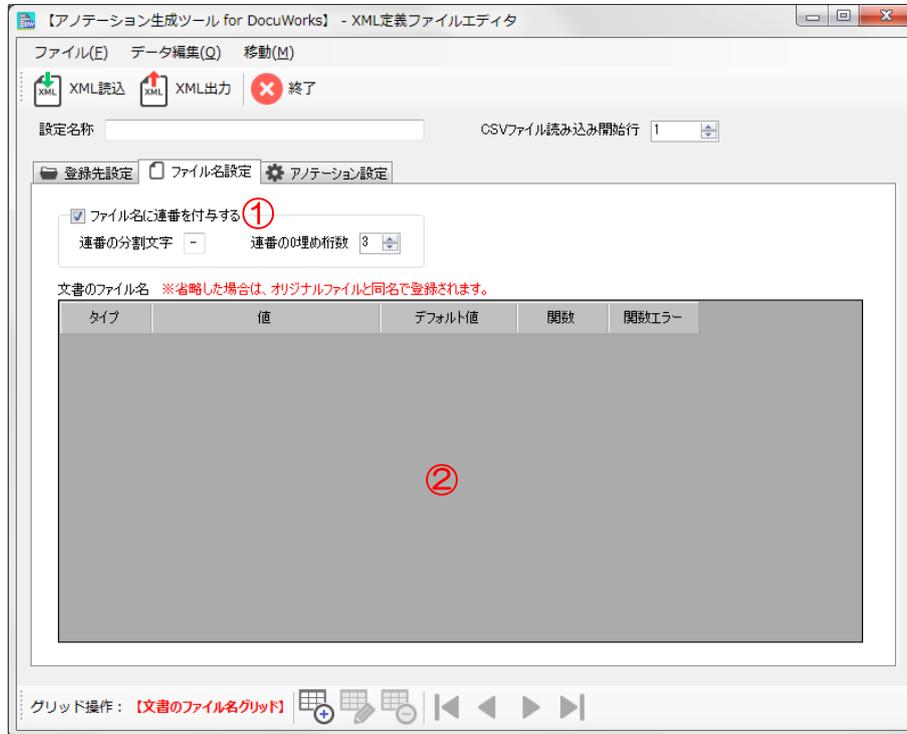
タイプ	値	デフォルト値	関数	関数エラー
value	C:\\$Users\\$[ユーザー名]\\$Desktop\$out¥		disabled	<input type="checkbox"/>
env	dateyyyyMMdd		disabled	<input type="checkbox"/>
value	¥		disabled	<input type="checkbox"/>
csv	2		disabled	<input type="checkbox"/>

パラメータ設定画面で「¥」を追加できない場合、固定値で「¥」を追加

◆ ファイル名設定

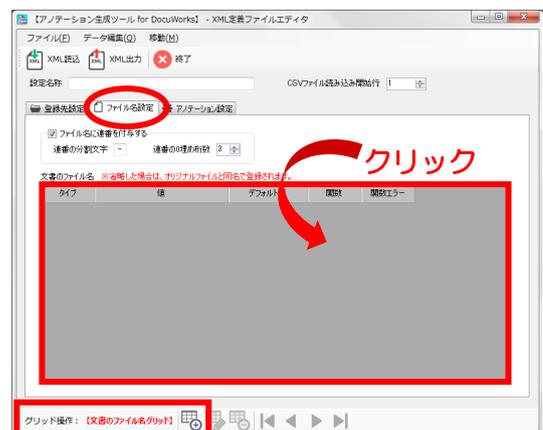
アノテーションを付与した DocuWorks ファイルを出力する際のファイル名を設定します。

【「ファイル名設定」画面構成】



番号	項目	説明
①	ファイル名に連番を付与する	アノテーションを付与したDocuWorksファイルのファイル名に連番をつける際に「ファイル名に連番を付与する」にチェックを入れます。 <ul style="list-style-type: none"> 連番の分割文字 ファイル名と連番の間を分ける文字を入力します。 連番の0埋め桁数 連番の桁数を指定します。
②	文書のファイル名	文書のファイル名として設定したパラメータが表示されます。パラメータを複数設定し、詳細なファイル名を付与することも可能です。

- ① 「定義 XML ファイルエディター」画面の「ファイル名設定」タブで画面を開き、文書のファイル名表示エリアをクリックしてグリッド操作を有効にします。



- ② 「追加」をクリックして「ファイル名データ追加」画面を表示します。パラメータの設定を行い「OK」をクリックします。パラメータの設定については、「[パラメータ設定](#)」で詳しく説明します。



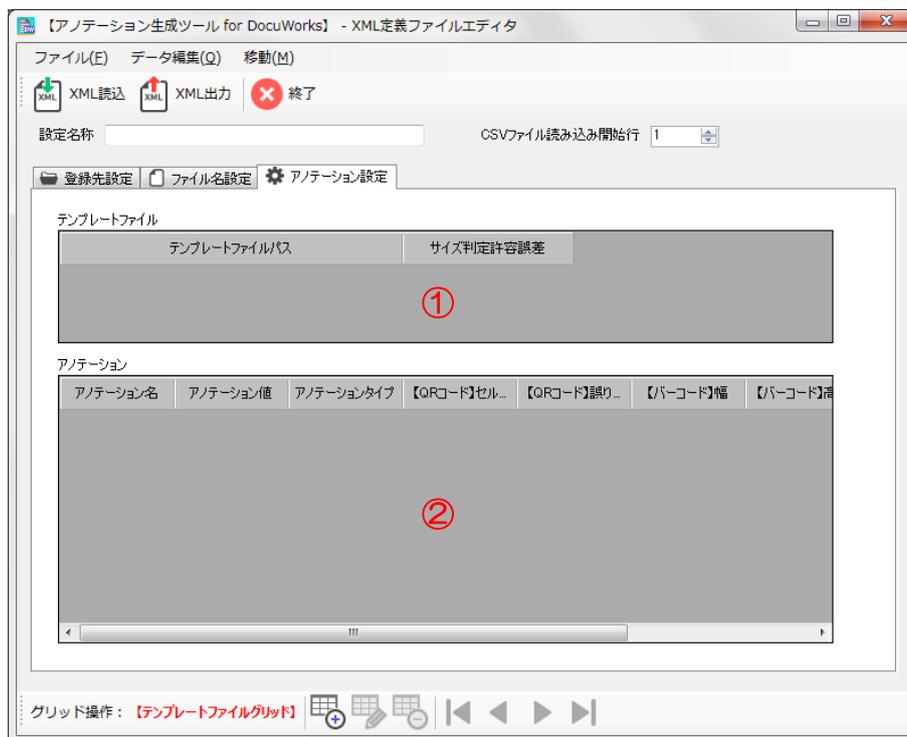
◆ アノテーション設定

処理対象の DocuWorks ファイルに付与するアノテーションの詳細設定を行います。付与できるアノテーションは、以下の4種類になります。



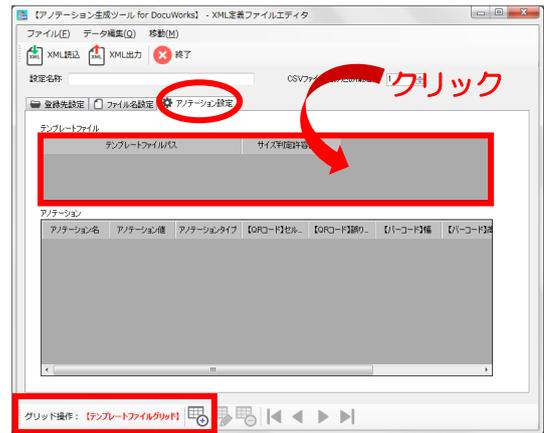
- テキスト
- バーコード
- QR コード
- ビットマップイメージ
(※DocuWorks 8 をお使いの場合、高さ・幅の指定はできません。)

【「アノテーション設定」画面構成】



番号	項目	説明
①	テンプレートファイル	使用するテンプレートファイルに設定されたファイルの絶対パスが表示されます。
②	アノテーション	処理対象のDocuWorksファイルに付与するアノテーションの設定値が表示されます。

- ① 「定義 XML ファイルエディター」画面の「アノテーション設定」タブで画面を開き、テンプレートファイル表示エリアをクリックしてグリッド操作を有効にします。

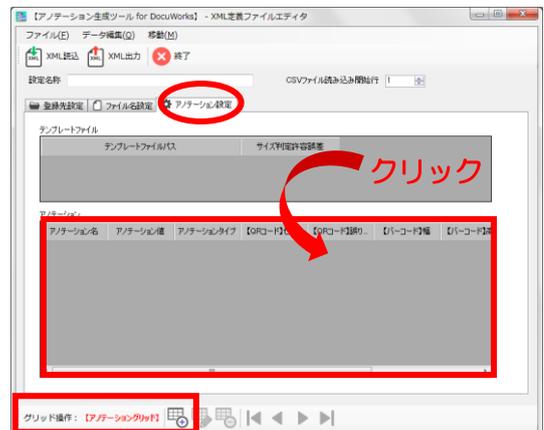


- ② 「追加」をクリックして「テンプレートファイル追加」画面を表示します。
テンプレートファイルの絶対パスを入力（または参照ボタンをクリックして該当ファイルを選択）します。
用紙サイズ判定時の許容範囲誤差（※1）を設定し、「OK」をクリックします。



※1 用紙サイズ判定時の幅と高さの誤差を設定します。“2”を設定した場合、幅と高さを、それぞれ±2mmの誤差まで認識可能です。省略した場合は、“2”が設定されます。

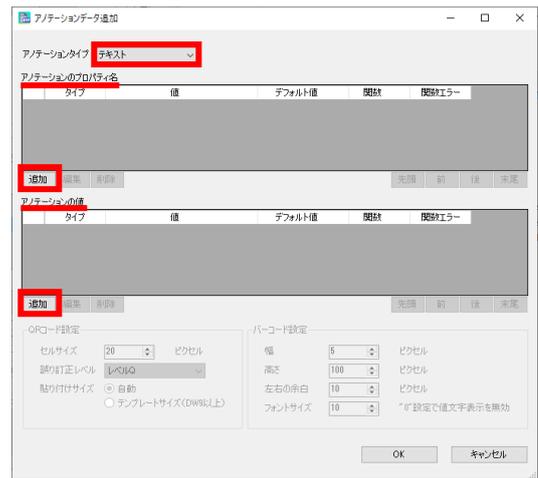
- ③ 次にアノテーション表示エリアをクリックしてグリッド操作を有効にし、「追加」から「アノテーションデータ追加」画面を表示します。



- ④ 最初に、アノテーションタイプをプルダウンメニューより選択します。次に「アノテーションのプロパティ名」欄の「追加」ボタン、及び「アノテーションの値」欄の「追加」ボタンからそれぞれパラメータの設定を行い「OK」をクリックします。

※「アノテーションのプロパティ名」には、[テンプレートファイル](#)で対象のテキストアノテーションに設定したユーザー定義属性名と同じ名前を設定します。

パラメータの設定については、「[パラメータ設定](#)」で詳しく説明します。



QRコード設定について

QRコード設定の「貼り付けサイズ」を「自動」に設定すると、QRコードのデータ、セルサイズ、誤り訂正レベルからQR生成ツールにより最適なバージョンサイズで自動生成されます。

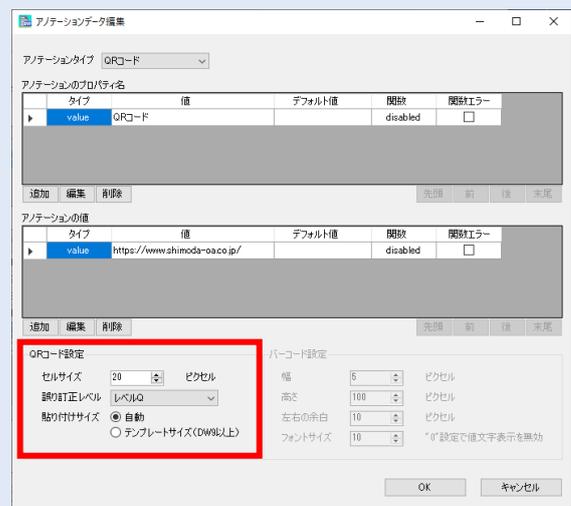
セルサイズ： QRコード中のセル（QRコードを構成している四角い黒白の点）の数を指定します。

誤り訂正レベル： QRコードの一部が破損した状態でもQRコードを読み取れる様に汚れや破損を訂正する機能。復元率 L(約 7%)・M(約 15%)・Q(約 25%)・H(約 70%)から指定します。

「テンプレートサイズ」は、最適なバージョンサイズで生成されたQRコードのイメージを、貼り付け場所であるテキストアノテーションのサイズに合わせて拡大または縮小します。



「テンプレートサイズ」でQRコードを生成した場合、完成したサイズ、形状によっては読み取り困難または不可となる場合があります。出力したQRコードが読み取り可能になるよう検証を行ったうえで使用してください。

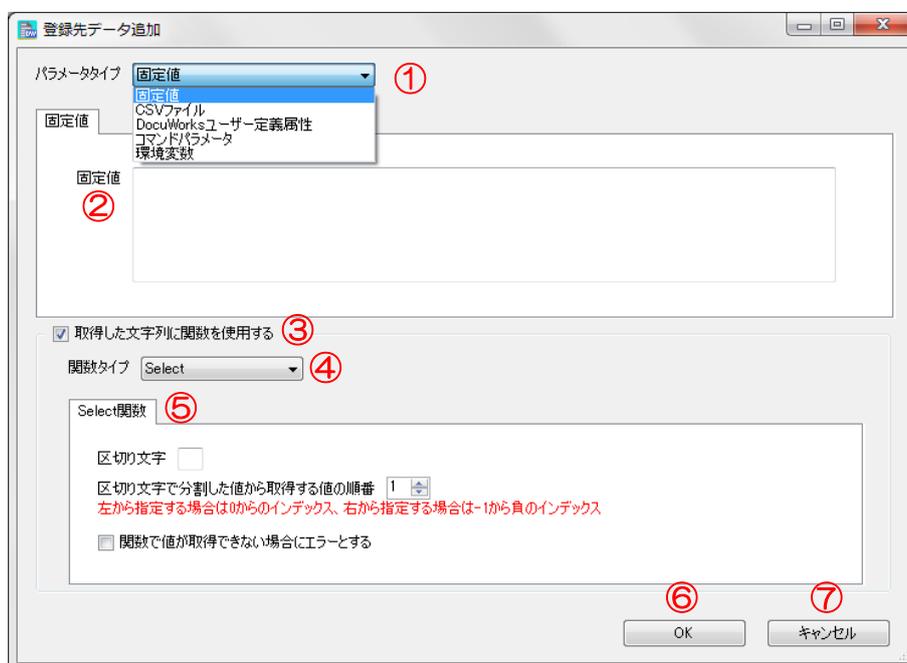


※ 貼り付けサイズ「テンプレートサイズ」は、DocuWorks 9 以上で動作します。

◆ パラメータ設定

「登録先設定」、「ファイル名設定」、「アノテーションのプロパティ名」、「アノテーションの値」の各画面でパラメータの設定を行います。

※サンプル画像は「登録先データ追加」画面です。



番号	項目	説明
①	パラメータタイプ	右端の▼をクリックし、プルダウンメニューより「固定値」、「CSVファイル」、「DocuWorksユーザー定義属性」、「コマンドパラメータ」、「環境変数」のいずれかを選択します。
②	値入力欄	<p>選択したパラメータタイプにより、値入力方法が変わります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 固定値 任意の文字列を定義します。 • CSVファイル CSVファイルから取得する値の列番号（1以降）を定義します。 • DocuWorksユーザー定義属性 処理対象DocuWorksファイルのユーザー定義属性から値を取得します。ユーザー定義属性の属性名を定義します。 • コマンドパラメータ コマンドパラメータから値を取得します。1つ目のパラメータを「0」として、パラメータを指定した順番を定義します。 • 環境変数 環境変数から値を取得します。「現在の日付」、「乱数値」のどちらか選択できます。
③	取得した文字列に 関数を使用する	取得した文字列に対して、関数（文字列の置換、文字列の部分取得）を使用することができます。関数を使用する場合にチェックを入れます。
④	関数タイプ	<p>右端の▼をクリックし、プルダウンメニューより「Select」、「Substring」、「Replace」のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Select Select関数：任意の区切り文字によって値を分割し、指定した値を取得します。 • Substring Substring関数：文字列の位置と取得する文字数を指定して値を取得します。 • Replace Replacd関数：文字列を別の文字列で置換します。（部分置換） ※複数の文字列を指定することも可能です。
⑤	関数指定欄	<p>各関数の指定を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Select関数 分割する区切り文字、選択する値の順番について指定します。 • Substring関数 取得する文字列の開始文字の位置、開始文字から抜き出す文字数について指定します。 • Replace関数 置換前と置換後の文字列を指定します。
⑥	OK	設定を確定して画面を閉じます。
⑦	キャンセル	入力した設定内容をキャンセルします。

6.2.2 手動で作成

テキストエディター等を使用して、定義ファイルの XML 構文を直接記述することも可能です。定義ファイルの構成は以下の通りです。

(定義ファイルは5つの要素でグループ化されています。各要素において、使用する機能を定義します。)

【タグ名一覧】

No.	タグ名	必須	説明
1	<Settings>	○	ルート要素となるタグです。子要素として、<CSVSettings> <DestinationSettings> <FileNameSettings> <AnnotationSettings> を指定します。
2	<CSVSettings>		ルート要素の子要素のタグです。CSVファイルデータを読み込む際の最初の行を指定します。
3	<DestinationSettings>	○	ルート要素の子要素のタグです。DocuWorksファイルの登録先を指定します。
4	<FileNameSettings>	○	ルート要素の子要素のタグです。DocuWorksファイルの変更するファイル名を指定します。
5	<AnnotationSettings>		ルート要素の子要素のタグです。DocuWorksファイルに貼り付けるアノテーションの値を指定します。

【<CSVSettings>タグ】

■属性

属性名	説明
dataStartRow	CSVファイルデータを読み込む際の最初の行を指定します。半角数字で指定します。省略されている、数値以外の値が設定されている場合は、デフォルト値“1”を設定します。

■子要素

なし

【<DestinationSettings>タグ】

■属性

なし

■子要素

要素名	説明
<StorePath>	DocuWorksファイルの登録先を指定します。絶対パスで定義します。定義ファイルに記述がない場合、コマンド引数-fで指定した処理対象ファイルが格納されているフォルダが格納先となります。子要素の<Param>タグ(後述の「<Paramタグ>」を参照)を複数行指定することで、動的にパスを生成することができます。

	<p>■ <Param>タグの設定例</p> <pre>-- <Param type="value">C:¥DwQRAnnot</Param> <Param type="value">¥sample</Param> <Param type="value">¥Text</Param> <Param type="value">¥out</Param> --</pre> <p>と指定した場合、格納先は、「C:¥DwQRAnnot¥sample¥Text¥out」となります。</p>
<Overwrite>	<p>上書きモードを指定する要素です。値は“true”または“false”を指定します。“true”の場合、処理対象ファイルと同じフォルダ内に同じ名前のファイルが存在した時に上書きを行います。“false”の場合は上書きを行わず、エラーとなります。初期値は“false”です。</p> <p>Overwriteの属性には「backup」を指定することができます。 「backup」の値：“true”または“false” ※初期値は“false”</p> <p>■ <Overwrite>タグの設定例</p> <pre>-- <Overwrite backup="true">true</Overwrite> --</pre> <p>Overwriteとbackup属性が“true”の場合、上書きされるファイルのファイル名に[XXX]を追加し、バックアップを取ります。 「XXX」には「001」～「999」までの値が順次入ります。</p>

【<FileNameSettings>タグ】

■属性

なし

■子要素

要素名	説明
<FileName>	<p>ファイル名を指定します。省略した場合はオリジナルのファイル名で登録します。</p> <p>子要素の<Param>タグ(後述の「<Paramタグ>」を参照)を複数行指定することで、動的にパスを生成することができます。</p> <p>■ <Param>タグの設定例</p> <pre>-- <Param type="value">sample</Param> <Param type="env">dateyyy-MM-dd </Param> --</pre> <p>と指定した場合、ファイル名は「sample 2019-09-01.xdw」となります。</p>
<SequenceNumber>	<p>ファイル名の末尾に連番を付与する要素です。</p> <p>3~5桁の連番をファイル名に付与します。</p> <p>出力先フォルダに同一名称のファイルが存在する場合、ファイル名の連番を小さい値から探し、最初に重複しなかった番号を付与します。</p> <p><SequenceNumber>の属性には「digit」と「separator」を指定します。</p> <p>「digit」の値：半角数字 ※初期値は“3” 「separator」の値：半角英数字/記号 ※初期値は“-” ※ファイル名に使用できない値が定義されたら“-”</p> <p>■ <SequenceNumber>タグの設定例</p> <pre>-- <SequenceNumber digit="3" separator="-" /> --</pre> <p>と指定した場合、ファイル名「見積もり文書.xdw」を「見積もり文書-001.xdw」に変更します。</p>

【<AnnotationSettings>タグ】

■属性

なし

■子要素

要素名	説明
<Template>	<p>テンプレートファイルに関する定義をします。文書のサイズごとに指定が必要です。"DEFAULT.xdw"という名称のファイルを用意することで、どのサイズの文書でも"DEFAULT.xdw"に貼られているアノテーションをもとに処理することが可能です。</p> <p><Template>の属性には「filepath」、「margin」を指定します。</p> <p>「filepath」の値：テンプレートファイルの絶対パス 「margin」の値：0~10(半角数字) ※初期値は"2"</p> <p>※「margin」は、用紙サイズ判定時の幅と高さの誤差を設定します。"2"を設定した場合、幅と高さを、それぞれ±2mmの誤差まで認識可能です。省略した場合は、"2"が設定されます。</p> <p>■<Template>タグの設定例</p> <pre>-- <Template filepath="C:¥DwQRAnnot¥sample¥Text ¥サンプルテンプレートA4.xdw" margin="3" /> <Template filepath="C:¥DwQRAnnot¥sample¥Text ¥サンプルテンプレートA3.xdw" margin="3" /> <Template filepath="C:¥DwQRAnnot¥sample¥Text ¥DEFAULT.xdw" /> --</pre> <p>処理するDocuWorksファイルのサイズに合うテンプレートファイルのアノテーション情報をもとに、処理を行います。上記の設定例の場合、A4±3mmサイズの用紙、A3±3mmサイズの用紙、それ以外のサイズの用紙の3パターンを定義しています。</p>
<Annotation>	<p>貼り付けるアノテーションの情報を指定します。複数指定する場合は<Annotation>を繰り返して記述します。</p> <p>子要素として、 <AnnotName> <AnnotValue> <AnnotType> を定義します。</p>
<AnnotName>	<p><Annotation>の子要素です。</p> <p>テンプレートで定義した各アノテーションのプロパティ名を指定します。指定は<Param>(後述の「<Paramタグ>」を参照)を使用します。</p> <p>■ <Param>タグの設定例</p> <pre>-- <Param type="value">発注書QR</Param> --</pre>

<p><AnnotValue></p>	<p><Annotation>の子要素です。アノテーションに貼り付ける値を定義します。指定は<Param>(後述の「<Paramタグ>」を参照)を使用します。</p> <p>■ <Param>タグの設定例</p> <pre>-- <Param type="csv">1</Param> --</pre> <p>※下記<AnnotType>で、Imageを指定する場合 <AnnotValue>として指定できるのは、<u>ビットマップ形式の画像ファイルの絶対パスのみ</u>です。</p> <p>※下記<AnnotType>で、Barcodeを指定する場合 <AnnotValue>として指定できるのは、<u>半角英数字および特殊記号(- (ハイフン)、.(ドット)、(半角スペース)、/(スラッシュ)、\$、+、%)のみ</u>です。</p>
<p><AnnotType></p>	<p><Annotation>の子要素です。値には、Text、QR、Barcode、Imageのいずれかを指定します。省略時やその他の値を指定した場合はTextとします。</p> <p>■ 設定例</p> <pre>-- <AnnotType>Image</AnnotType> --</pre> <p>※QRを利用する場合 <AnnotType>の属性には「cellsize」、「level」、「sizemode」を指定できます。</p> <p>「cellsize」の値：QRコードのサイズを半角数字で指定する。 単位はピクセル。※初期値は"20"、正の整数</p> <p>「level」の値：誤り訂正レベルを半角数字0~3で指定する。数値が大きいほどノイズに強い。 ※初期値は"2"、0~3の整数</p> <p>「sizemode」の値：QRコードのサイズのモードを半角数字0または1で指定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「0」自動サイズモード cellsize、level、QRコードの値から自動で生成される最適なサイズで貼り付ける。 「1」テンプレートサイズモード テンプレートファイルに追加したQRコードを貼り付ける対象のテキストアノテーションのサイズで貼り付ける。 <div style="border: 2px solid orange; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p> テンプレートサイズを設定した場合の注意事項 DocuWorks9 以上でのみ動作（条件を満たさない場合、強制的に自動サイズモードで動作します。）テンプレートサイズモードは、自動サイズモードと同様に最適なサイズで生成されたQRコードのイメージを、貼り付け場所であるテキストアノテーションのサイズに修正するため、生成されたQRコードと修正後のサイズが大きく変わる場合はQRコードの読み取りが困難または不可となる場合があります。読み取り検証を行ったうえで使用してください。</p> </div> <p>■ 設定例</p> <pre>-- <AnnotType cellsize="24" level="3" sizemode="1">QR</AnnotType> --</pre>

		<p>※Barcodeを利用する場合 <AnnotType>の属性には「barWidth」と「barHeight」と「hMargin」と「vMargin」と「fontsize」を指定できます。 「barWidth」の値：バーコードのバーのサイズ(幅)を指定する。 ※初期値は"100"、3以上の整数</p> <p>「barHeight」の値：バーコードのバーのサイズ(高さ)を指定する。 ※初期値は"5"、正の整数</p> <p>「hMargin」の値：バーコードのマージン(横)を指定する。 ※初期値は"10"、0以上の整数</p> <p>「vMargin」の値：バーコードのマージン(縦)を指定する。 ※初期値は"10"、0以上の整数</p> <p>「fontsize」の値：フォントのサイズを指定する。 ※初期値は"10"、0以上の整数 ※"0"を設定すると、バーコードの下に値を表示しないようにできる。</p> <p>■ 設定例 -- <AnnotType barWidth="4" barHeight="90">Barcode</AnnotType> --</p>
--	--	--

【<Param>タグ】

定義ファイルでは、

- フォルダ名
- ファイル名
- アノテーションのプロパティ名
- アノテーションとして貼り付ける値

を指定する方法として<Param>を使用します。

値の指定には、type 属性を使用します。

属性名	説明		
type	以下、5つの値を定義することができます。		
	値	形式	説明
	value	文字列	任意の文字列を定義します。 ■ 設定例 -- <Param type=" value" >文字列</Param> --
	csv	半角数字 (1~)	CSVファイルから取得する値の列番号(1以降)を半角数字で定義します。 ■ 設定例 -- <Param type=" csv">1</Param> --
	dwattr	文字列	DocuWorksのユーザー定義属性から値を取得します。ユーザー定義属性の属性名を定義します。 ※DocuWorksのオリジナル属性は設定できません。 ■ 設定例 -- <Param type=" dwattr">タイトル</Param> --
	arg	半角数字 (0~)	引き数から値を取得します。 1つ目の引き数を0として、引き数を指定した順番を半角数字で定義します。 ■ 設定例 -- <Param type=" arg">0</Param> --
env	date または random	環境変数から値を取得します。 date：現在の日付 (*1) random：乱数値 (1~9) (*2) を定義します。 ■ 設定例 -- • date <Param type=" env">dateyyyMM</Param> • random <Param type=" env">random2</Param> --	

(*1) dateの指定方法

日付のフォーマットを固定値「date」の後ろに結合して指定します。
日付で指定可能なフォーマット文字列は、次のとおりです。

項目	例	説明
yyyy	2019	4けたの年
yy	19	0埋め2けたの年
MM	09	0埋め2けたの月
dd	01	0埋め2けたの日
ddd	月	曜日の省略名
dddd	月曜日	曜日の完全名
HH	15	0埋め2けたの時間（24時間表記）
hh	03	0埋め2けたの時間（12時間表記）
mm	36	0埋め2けたの分
ss	24	0埋め2けたの秒

(*2) randomの指定方法

固定値randomの後ろに乱数値の桁数(1~9)を結合して指定します。

補足 1

<Param>には、default 属性を利用して、デフォルト値を指定することができます。DocuWorks 属性や CSV ファイルの値が取得できなかった場合に利用します。

例) <Param type= "csv" default="データなし">1</Param>
→CSV ファイルの 1 列目の値が取れなかった場合"データなし"を設定

<Param type= "dwattr" default="">図面番号</Param>
→DocuWorks 属性が取れなかった場合""を設定

補足 2

<Param>を複数指定することで文字列の連結をすることができます。連結の順序は XML の上から順番に連結します。

例)
・引き数の 0 番目の値が"001"
・本日の日付が 2019 年 9 月 1 日
の条件で、以下の XML を指定した場合

```
<Param type="value">FX-</Param>
<Param type="attr">0</Param>
<Param type="value">-</Param>
<Param type="env">date dateyyyyMMdd</Param>
```

→「FX-001-20190901」を取得します。

取得した文字列に対して、関数（文字列の置換、文字列の部分取得）を使用することができます。
 使用できる関数は、以下のとおりです。

関数名	説明
select	任意の区切り文字によって値を分割し、指定した値を取得します。 例) 「FX-001-A」を区切り文字“-”で値を分割し、文字列“001”を取得できます。
substring	文字列の位置と取得する文字数を指定して値を取得します。 例) 「FX-001-A」の最初(0番目)から2文字分の文字列“FX”を取得できます。
replace	文字列を別の文字列で置換します。(部分置換) ※複数の文字列を指定することも可能です。 例) 「FX-001-A」の文字列“FX”を“富士”に置換して文字列「富士-001-A」を取得できます。

■select 関数の指定方法

関数名	説明
func	“select”を指定します。
separator	分割する区切り文字(1文字)を指定します。ここで指定した文字によって、文字列を分割します。 省略時は“ ”が区切り文字となります。
index	選択する値の順番を指定します。分割した値を左から指定する場合は0以上の整数で順番を指定します。 分割した値を右からカウントしたい場合は負の数で-1から順番を指定します。 例) 文字列「FX-001-A」 ※separator に“-”を指定 分割された値 FX 001 A 左から指定 0 1 2 右から指定 -3 -2 -1
err	関数で値が取得できない場合にエラーとするかどうかを指定します。 値に“true”を指定した場合、エラーとして処理を中止します。“false”を指定した場合、処理前の値(変更前の値)を取得します。省略時は“false”です。

例) Select 関数 0番目の引数の値が“FX-001-A”の場合

<Param type="attr" func="select" separator="-" index="1" >OK</Param>
 →“001”を取得します。

<Param type="attr" func="select" separator="-" index="-1" >OK</Param>
 →“A”を取得します。

■substring 関数の指定方法

関数名	説明
func	値に"substring"を指定します。
begin	取得する文字列の開始文字の位置を指定します。 0以上の整数を指定します。 一番左の文字を0とします。
count	開始文字から抜き出す文字数を指定します。 0以上の整数を指定します。
err	関数で値が取得できない場合にエラーとするかどうかを指定します。 値に"true"を指定した場合、エラーとして処理を中止します。 "false"を指定した場合、処理前の値(変更前の値)を取得します。省略時は"false"です。

例) substring 関数 0番目の引数の値が"FX-001-A"の場合
 <Param type="attr" func="substring" begin="3" count="3" >OK/Param>
 →"001"を取得します。

■replace 関数の指定方法

関数名	説明
func	値に"replace"を指定します。
old	置換前の文字列を指定します。カンマ区切りで複数の文字列を指定することができます。複数指定した場合は、対応した値を new 属性にカンマ区切りで指定します。 例) old="001,002,003" new="営業,総務,開発" 値が"001"の時は⇒ "営業"に置換 値が"002"の時は⇒ "総務"に置換 値が"003"の時は⇒ "開発"に置換 カンマ区切りで複数の値を指定した場合、左から順番に置換処理が行われます。また、「,」(カンマ)は区切り文字として使用するため、文字列として使用できません。属性[old]で指定した文字列がない場合は、置換をせずにそのままの値を取得します。
new	置換後の文字列を指定します。カンマ区切りで複数の指定が可能です。「,」(カンマ)は区切り文字として使用するため、文字列として使用できません。

例 1) replace 関数(複数指定) 0番目の引数の値が"FX-01"の場合
 <Param type="attr" func="replace" old="01,02" new="見積,契約" >OK/Param>
 →"FX-見積"を取得します。

例 2) replace 関数(単一指定) 0番目の引数の値が"FX-001"の場合 <Param type="attr" func="replace" old="FX" new="富士" >OK/Param>
 →"富士-001"を取得します。

6.3 CSV ファイル

CSVファイルのデータをアノテーションとして貼り付ける場合は、貼り付けたい値が記載されているCSVファイルを任意で用意します。指定した行を始めとして、記載されている行数分の処理が実行されます。

例)

発注書NO	発注年月日	お客様名	見積番号	納品期限日	納品場所	備考
SMO-OA001	2019/8/11	〇〇商会	W20190703T	2019/9/15	〇〇倉庫	お世話になっております。今後とも宜しくお願
SMO-OA002	2019/10/20	株式会社〇〇	W20190808O	2019/11/20	△△支社	お世話になっております。今後とも宜しくお願
SMO-OA003	2019/10/25	〇〇産業株式会社	W20190926K	2019/11/30	□□支店	お世話になっております。今後とも宜しくお願
SMO-OA004	2019/11/15	〇〇AAA	W20190614T	2019/12/1	本社物流倉庫	お世話になっております。今後とも宜しくお願

1列目：発注書NO

2列目：発注年月日

3列目：お客様名

4列目：見積番号

5列目：納品期限日

6列目：納品場所

7列目：備考 ～を記載しています。

本サンプルでは4行記載（1行目はタイトル行）しているので、4文書に対して処理が行われます。

7 文書出力

文書出力はコマンドラインによる実行で動作します。

バッチファイルからのコマンド実行や、コマンドプロンプト、DocuWorks 等、他のアプリケーションからコマンド実行することで文書出力を行います。

以下、実行コマンドについて説明します。

DwQRAnnot.exe -x *xml_filepath* -f *dw_filepath* [-d *csv_filepath*] [-p 値1 値2 …]

(実行ファイル) (定義ファイル) (処理対象ファイル) (CSV ファイル) (引き数)

[-m] [-r]

[] : 任意

… : 半角スペース区切りで複数指定可能

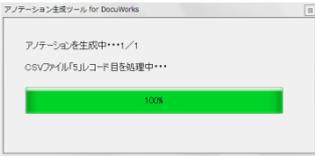
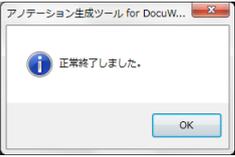
※[]で囲まれていない引数は必須です。

※各引数は、順不同です。

※コマンドで設定するファイルは、コマンド実行時のカレントパスから参照可能なパスで設定する必要があります。

※各引数の説明は以下のとおりです。

No.	引き数	必須/任意	内容
1	<i>DwQRAnnot.exe</i>	必須	アノテーション生成ツールの実行ファイル 本アプリケーションをインストールしたフォルダにある“DwQRAnnot.exe”になります。
2	-x <i>xml_filepath</i>	必須	定義ファイルのファイルパスを指定します。
3	-f <i>dw_filepath</i>	必須	アノテーションを貼り付ける処理対象ファイル (DocuWorks) のファイルパスを指定します。半角スペースで区切ることで、複数のファイルを指定できます。
4	-d <i>csv_filepath</i>	任意	CSV ファイルのデータをアノテーションとして貼り付ける場合、CSV ファイルのファイルパスを指定します。 ※CSV ファイルを使用することで、CSV ファイルのデータ開始行からの行数分の文書が出力されます。
5	-p 値 1 値 2 …	任意	登録する属性値を指定します。半角スペースで区切ることで、複数の値を指定できます。文字コードは Shift-JIS です。

6	-m	任意	<p>処理中と処理終了後に、メッセージを表示させる場合に指定します。</p> <p>■処理中</p>  <p>■処理終了(正常)</p>  <p>■処理終了(異常)</p>  <p>※複数文書进行处理する場合や CSV ファイルのデータを利用する場合は、この引き数を指定することを推奨します。</p>
7	-r	任意	<p>処理完了後、NO.2 で指定した処理対象ファイル (DocuWorks) を削除するかどうかを指定します。</p> <p>"-r"が指定されている場合は、処理対象ファイル (DocuWorks) を削除します。削除しない場合は、指定しないでください。</p> <p>☑ 文書を完全に削除するため、削除した文書を復元できません。再現できない文書を取り扱う場合は、このオプションは利用しないことを推奨します。</p> <p>☑ 処理完了ファイルの格納先を指定しない (=処理対象ファイルと保存先が同じ) 場合と、定義ファイルの <DestinationSettings> タグと <FileNameSettings> タグに設定した処理完了ファイルの格納先が、処理対象ファイルの格納先と同じパスになる場合は、削除対象のファイルがないため、エラーとなります。</p>

■実行コマンドの戻り値

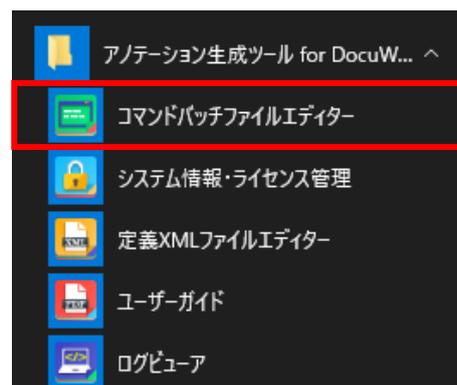
戻り値	メッセージ	詳細及び対処方法
0	正常終了 (エラーなし)	
-1	製品情報の初期構成が設定されていない	Windows のスタート画面から「システム情報・ライセンス管理」をクリックして実行する
-2	評価期間が終了した	引き続き使用する場合は、本ソフトウェアを購入しライセンス認証を行う
-3	製品情報取得エラー	PC の再起動を行う
-4	ライセンス情報取得エラー	解決しない場合は、本ソフトウェアを一旦 アンインストール し、再度 インストール を行う
-5	DocuWorks のインストール情報が取得できない	DocuWorks のインストールを行う

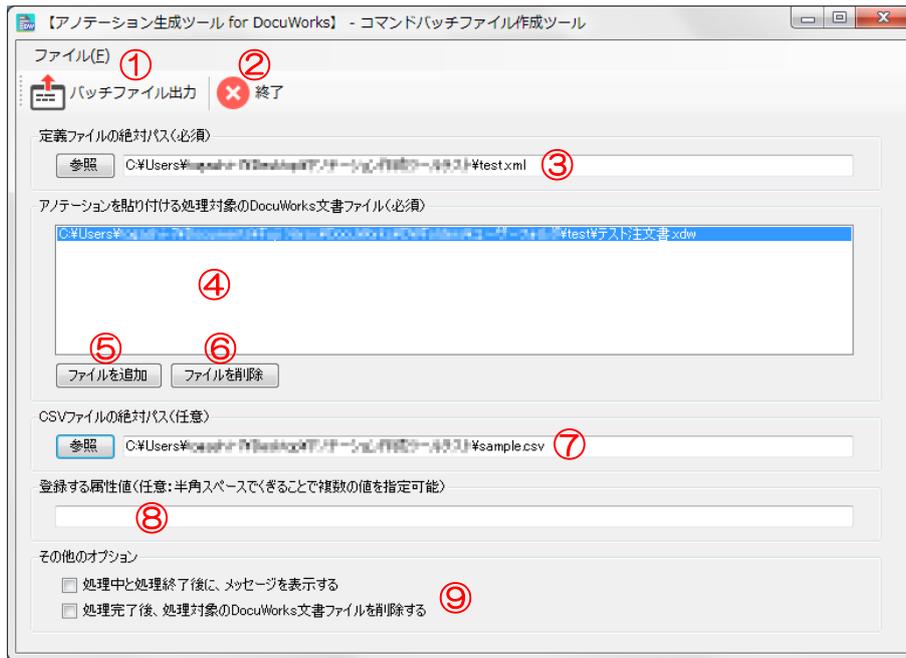
-6	システムログ初期化エラー	下記ログフォルダを作成できない可能性あり “[RootDrive]¥Users¥[UserDir]¥AppData¥Roaming¥ShimodaOA¥DwAnnot¥Log” 下記までは Windows の既定のフォルダ、このパスの確認とアクセス権を確認する “[RootDrive]¥Users¥[UserDir]¥AppData¥Roaming¥”
-7	コマンド起動パラメータ構文エラー	コマンドライン実行のコマンドラインパラメータが正しくない コマンドラインを確認する 詳細なエラーがログに出力されるので確認する
-8	定義 XML ファイル構文エラー	定義 XML ファイルの構成にエラーがある 詳細なエラーがログに出力されるので確認して、定義 XML ファイルを修正する
-9	アノテーション生成中の予期せぬエラー	アノテーション生成プロセス中に予期しないエラーが発生 詳細なエラーがログに出力されるので確認する
-10	アノテーション生成中以外の予期せぬエラー	アノテーション生成プロセス中以外に予期しないエラーが発生 詳細なエラーがログに出力されるので確認する
-11	コマンド(処理ファイル削除)パラメータ設定エラー	「登録先設定」と「ファイル名設定」が省略され、かつ、上書きを有効にしている XML 定義ファイルでは、処理対象 DocuWorks ファイルを削除するオプションは使用できない
正の整数	アノテーション生成中のエラー	アノテーション生成処理は、エラーが発生しても処理を継続する(上記のマイナス値が返るエラー発生時を除く) 正の整数が返った場合はアノテーション生成処理中に発生したエラーの件数となる 各エラーの詳細がログに出力されるので確認する

◆ バッチファイル

本ソフトウェアの「コマンドバッチファイルエディター」を利用し、バッチファイルを作成、実行する方法を説明します。

Windows のスタート画面「アノテーション生成ツール for DocuWorks」 - 「コマンドバッチファイルエディター」をクリックして「コマンドバッチファイル作成ツール」を開きます。





番号	項目	説明
①	バッチファイル出力	バッチファイルの保存先、ファイル名を指定して出力します。
②	終了	「コマンドバッチファイル作成ツール」画面を終了します。
③	定義ファイルの絶対パス	「参照」ボタンを押して、「6. 2 定義ファイル」で作成した定義ファイルを選択します。
④	アノテーションを貼り付けるDocuWorksファイルのパス	アノテーションを貼り付ける処理対象ファイル（DocuWorks）のファイルパスを表示します。
⑤	ファイルを追加	アノテーションを貼り付ける処理対象のDocuWorksファイルを選択します。
⑥	ファイルを削除	④で選択されたアノテーションを貼り付けるDocuWorksファイルを削除します。
⑦	CSVファイルの絶対パス	CSVファイルのデータをアノテーションとして貼り付ける場合、CSVファイルのファイルパスを指定します。
⑧	登録する属性値	登録する属性値を指定 します。半角スペースで区切ることで、複数の値を指定できます。（-p 値1 値2…）文字コードはShift-JISです。
⑨	その他オプション	<p>チェックを入れることで以下の動作を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・処理中と処理終了後に、メッセージを表示する ・処理完了後、処理対象のDocuWorks文書ファイルを削除する <div style="border: 2px solid orange; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>! 「処理完了後、処理対象のDocuWorks文書ファイルを削除する」にチェックを入れた場合、「同一文書名が存在時上書きを許可する」設定にしていると、（同一名称で出力した）アノテーションを貼り付けて、処理対象ファイルに上書きしたファイルを削除してしまうので注意してください。</p> </div>

「バッチファイル出力」で保存したファイルをダブルクリックして実行します。

正常に動作すると、「6. 2 定義ファイル」の「[登録先設定](#)」で指定した場所にアノテーションが貼りつけられた DocuWorks が作成されます。

8 DocuWorks で起動する場合

8.1 DocuWorks のお仕事バーに追加する

以下に、DocuWorks Desk のお仕事バーに追加する手順を記載します。

手順 1

DocuWorks Desk を立ち上げます。

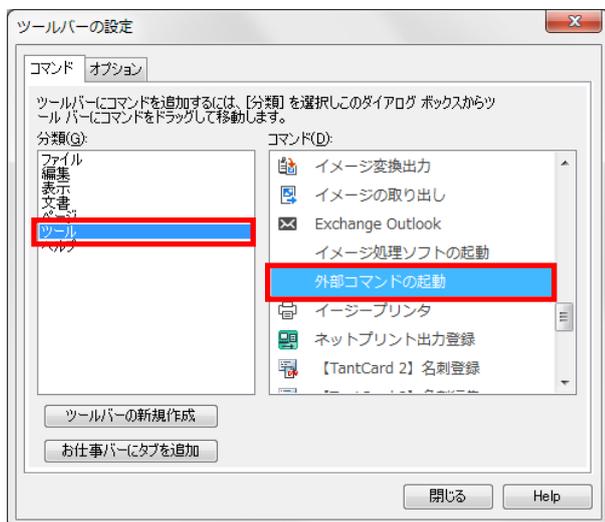
手順2

DocuWorks Deskのメニューで、「ツール」 > 「ツールの設定」を選択します。



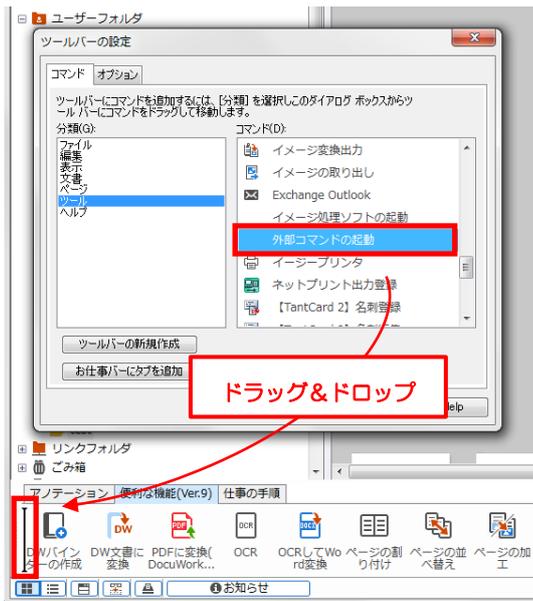
手順3

以下の画面が立ち上がるので、「ツール」 > 「外部コマンドの起動」を選択します。



手順4

「外部コマンドの起動」を選択した状態で、お仕事バー上にドラッグ&ドロップします。

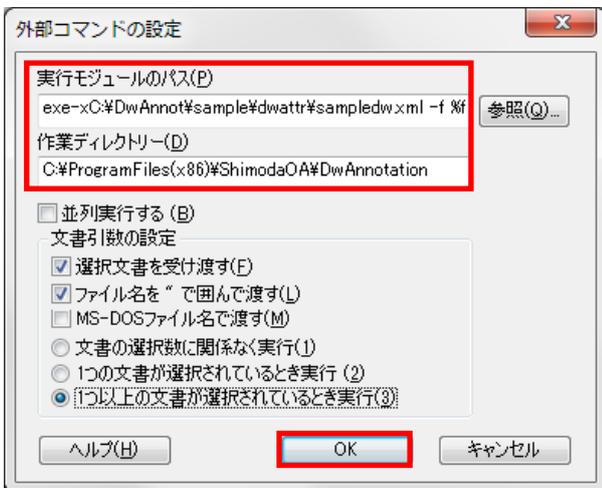


手順 5

以下の画面が開くので、

- 実行モジュールのパス
- 作業ディレクトリ

を入力します。入力したら、「OK」をクリックします。



項目	内容
実行モジュールのパス	<p>実行コマンドを入力します。</p> <p>例1) 選択したDocuWorksファイルの属性値をアノテーションとして貼り付ける DocuWorksファイルは上書きする</p> <p>C:\Program Files (x86)\ShimodaOA\DwAnnotation\DwQRAnnot.exe -x C:\DwAnnot\sample\dwattr\sampldw.xml -f %f</p>

	<p>例2) 選択したDocuWorksファイルを複製し、CSVで指定した行数分の処理をする</p> <p>DocuWorksファイルには、連番を付与する 処理中にメッセージも表示する</p> <pre>C:\Program Files (x86)\ShimodaOA\DwAnnotation\DwQRAnnot.exe -x C:\DwAnnot\sample\csv\sampledw.xml -d C:\DwAnnot\sample\csv\sample.csv -m -f %f_」</pre> <p><input checked="" type="checkbox"/> %fは、必ずコマンドの最後に記載してください。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 実行モジュールのパスに使用するフォルダ名にスペースが使用されている場合、フォルダ名を『“』で囲んでください。</p>
作業ディレクトリ	<p>実行するexeファイル(DwQRAnnot.exe)が存在しているフォルダを指定します。 例)「C:\Program Files (x86)\ShimodaOA\DwAnnotation」</p>
並列実行する	<p>チェックを入れしないでください。</p>
文書引数の設定	<p>以下の2項目をチェックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 選択文書を受け渡す <input checked="" type="checkbox"/> ファイル名を“で囲んで渡す <p>以下のラジオボタンを選択します。 ◎1つ以上の文書が選択されているとき実行(3)</p>

手順6

アイコンが追加されます。アイコン上で、右クリック>「名前の変更」で名前を変えることも可能です。



8.2 DocuWorks から実行する

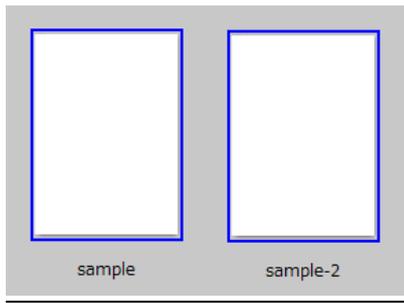
文書を選択して、実行します。

「[8.1 DocuWorks お仕事バーに追加する](#)」の「[手順5](#)」の“実行モジュールのパス”に記載した例1,2の実行方法をもとに、記載します。

例1) 選択したDocuWorksファイルの属性値をアノテーションとして貼り付ける
DocuWorksファイルは上書きする

処理対象の文書を選択します。同じサイズの文書は、複数選択することができます。

※サイズが異なる文書を複数選択しないでください。



文書のプロパティ>ユーザー定義属性



タイトル：発注書1
日付：2019/09/01

The image shows a speech bubble containing a screenshot of the 'Document Properties' dialog box in DocuWorks. The 'User-defined Properties' tab is selected. The 'Title' field contains '発注書1' and the 'Date' field contains '2019/09/01'. To the right of the dialog box, a separate box contains the text 'タイトル：発注書1' and '日付：2019/09/01'.

お仕事バーに登録したアイコンをクリックし、アノテーション生成ツール for DocuWorks を実行します。



対象文書にアノテーションが貼り付けられます。(上書き)



補足

定義ファイルの内容

```

<?xml version="1.0" encoding="Shift-JIS"?>
<Settings>
<DestinationSettings>
<Overwrite>true</Overwrite>→上書きする場合は"true"を指定
</DestinationSettings> ※<StorePath>は指定しないでください。
<FileNameSettings> →ファイル名を指定しない場合でも、
</FileNameSettings> このタグは記載してください。
<AnnotationSettings>
<Template filepath="C:¥ DwAnnotation ¥sample¥dwattr¥サンプルテン
プレート.xdw" />
<Annotation>
← サンプルテンプレートの"タイトル"という名前のアノテーションに、処理
対象ファイルの"タイトル"属性の値"発注書 1"を埋め込み、貼り付ける→
<AnnotName>
<Param type="value">タイトル</Param>
</AnnotName>
<AnnotValue>
<Param type="dwattr">タイトル</Param>
</AnnotValue>
</Annotation>
← サンプルテンプレートの"日付"という名前のアノテーションに、処理対象
ファイルの"日付"属性の値"2019/09/01"を埋め込み、貼り付ける→
<Annotation>
<AnnotName>
<Param type="value">日付</Param>
</AnnotName>
<AnnotValue>
<Param type="dwattr">日付</Param>
</AnnotValue>
</Annotation>
</AnnotationSettings>
</Settings>

```

例2) 選択したDocuWorksファイルを複製後、デザインを変更しCSVで指定した行数分の処理をす
る DocuWorksファイルには連番を付与する 処理中にメッセージも表示する

処理対象の文書を選択します。※複数選択可能です。



例)
同じサイズの処理対象文書（デザイン違い）を
複数選択しています。
貼り付けるテンプレート（プロパティ名、貼り
付け位置）は共通です。

お仕事バーに登録したアイコンをクリックし、アノテーション生成ツール for DocuWorks を実行します。

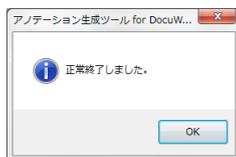


処理中にメッセージが表示されます。完了したら、「OK」をクリックします。

■ 処理中



■ 処理完了



対象文書にアノテーションが貼り付けられ、連番をつけた状態で保存されます。



選択した 2 文書に対し、各文書 CSV の行数 (3 行) 分の処理が行われます。
2 文書 × 3 行 = 6 文書 生成されます。

定義ファイルの内容

```

<?xml version="1.0" encoding="Shift-JIS"?>
<Settings>
<CSVSettings dataStartRow="2" /> →CSV ファイル 2 行目~参照
<DestinationSettings>
<Overwrite>>false</Overwrite> →上書きしない場合は"false"を指定
</DestinationSettings>
<FileNameSettings>
<SequenceNumber digit="3" separator="-" /> →連番の設定
</FileNameSettings>
<AnnotationSettings>
<Template filepath="C:¥ DwAnnotation ¥sample¥csv¥サンプルテンプレ
ート.xdw" />
<Annotation>
<AnnotName>
<Param type="value">タイトル</Param>
</AnnotName>
<AnnotValue>
<Param type="csv">1</Param>
</AnnotValue>
</Annotation>
<Annotation>
<AnnotName>
<Param type="value">年月日</Param>
</AnnotName>
<AnnotValue>
<Param type="env">dateyyyy/MM/dd</Param>
</AnnotValue>
</Annotation>
</AnnotationSettings>
</Settings>

```

CSV ファイルの内容

タイトル	担当
発注書 1.	佐藤
発注書 2.	富士
発注書 3.	田中

→ 2 行目~参照

9 運用上の注意・制限事項

9.1 注意事項

- アノテーションを重ねたい場合、処理される順序は定義ファイルに記載した順になります。テンプレートに貼り付けた順では処理されないので、ご注意ください。
- QRコード・バーコードを使用する場合は、読み取れることを確認してから、導入してください。

9.2 制限事項

【全体】

- テンプレートで“回転”を設定した文字列の折り返しはできません。
- 処理対象ファイルに対応するテンプレートのサイズは、1つのみです。同じサイズの異なるテンプレートを利用することができません。

【バーコードを利用する場合】

- CODE39は、チェックデジットの設定がありません。バーコード利用する場合は、チェックデジット付きのコードをわたしてください。
- CODE39で使用できない文字を設定した場合は、エラーとなります。

使用できる文字は以下のとおりです。

数字 (0 -9)

アルファベット (A-Z)

特殊記号 (- (ハイフン)、. (ドット)、(半角スペース)、/ (スラッシュ)、\$, +, %)

【イメージを貼る場合】

- (DocuWorks 8では) イメージを貼る場合、高さ・幅の指定はできません。

【QRコードを利用する場合】

- 次の文字が含まれている場合、QRコード生成時にエラーとなります。

1. XMLの制限により指定できないもの (括弧内: CP932の文字コード)

「”」 (0x22)、 「&」 (0x26)、 「'」 (0x27)、 「<」 (0x3c)、 「>」 (0x3e)

2. QRコード生成用モジュールの文字コード変換に起因するもの

(括弧内: unicodeの文字コード、CP932の文字コード)

「~」 (U+FF5E、0x8160)

「ϕ」 (U+FFE0、0x8191)

「£」 (U+FFE1、0x8192)

「//」 (U+2225、0x8161)

「ー」 (U+FF0D、0x817c)

「」 (U+FFE2、0x81ca)

「一」 (U+2015、0x815c)

3. 機種依存文字

該当する文字コードが存在しない領域に、独自に合成した文字を割り当てた文字

4. 制御文字

上記以外の0x00番台、0x10番台等

• 次の文字が含まれている場合、QRコード生成時に半角スペース(0x20)に置換されます。

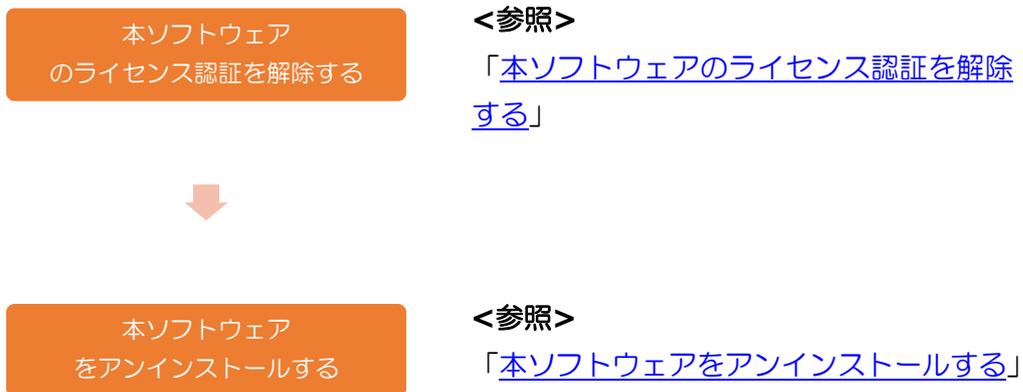
1. XMLの仕様に起因する制御文字

複数の空白文字(0x09(水平タブ), 0x0a(LF(改行)), 0x0d(CR(復帰)))

10付録

10.1 アンインストール

本ソフトウェアは、次のような流れでアンインストールします。



本ソフトウェアのライセンス認証を解除する

本ソフトウェアをアンインストールする前に、ライセンス認証を解除します。
必ず、現在使用している本ソフトウェアのライセンス認証を解除してください。

<参照>

[「ライセンス認証を解除する」](#)

本ソフトウェアをアンインストールする

ライセンス認証を解除したあと、本ソフトウェアをアンインストールします。

 管理者（Administrator）権限を持つアカウントでログインして作業を行ってください。

- ① Windows のスタート画面から歯車アイコンの「設定」をクリックします。

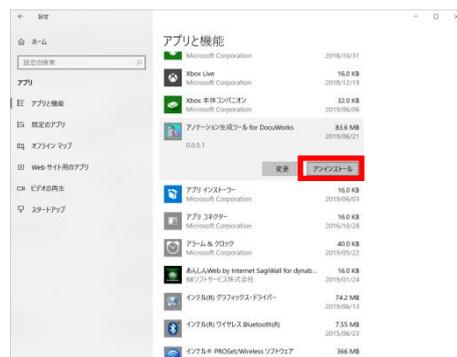


- ② 「Windows の設定」画面で「アプリ」をクリックします。



③ 「アプリと機能」画面が開き、現在インストールされているソフトの一覧が表示されますので、一覧より「アノテーション生成ツール for DocuWorks」を選択し、「アンインストール」ボタンをクリックします。

④ アンインストールが正常に完了したら「閉じる」をクリックして画面を終了します。



10.2 評価版について

本ソフトウェアの評価版では、製品版のすべての機能をライセンス認証登録なしで30日間評価・ご利用いただけます。

10.3 動作ログ

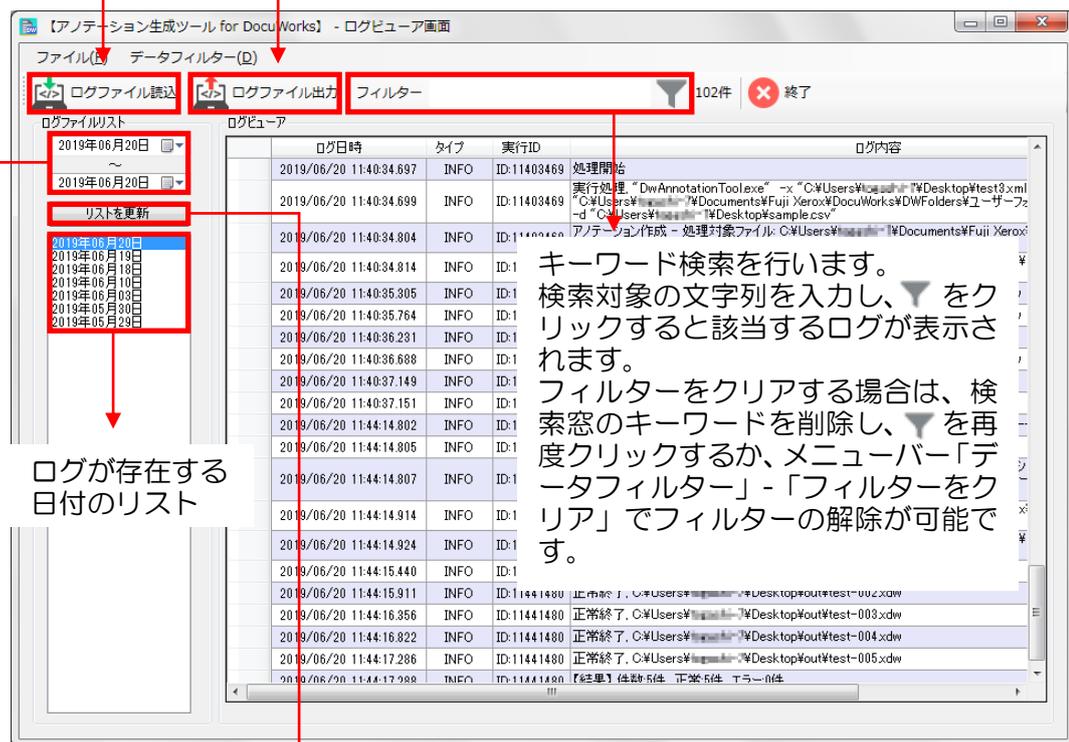
Windows のスタート画面「アノテーション生成ツール for DocuWorks」- 「ログビューア」をクリックすると「ログビューア」画面が立ち上がります。

必要に応じてご利用ください。

ログファイルはアプリケーションデータフォルダの下の「log」フォルダに、「DwAnnot.yyyy-MM-dd.log」という名称で保存されています。

ログファイルをビューアに表示します。

ファイル名、出力場所を指定してログファイルを出力します。



ログが存在する日付のリスト

キーワード検索を行います。検索対象の文字列を入力し、▼をクリックすると該当するログが表示されます。フィルターをクリアする場合は、検索窓のキーワードを削除し、▼を再度クリックするか、メニューバー「データフィルター」- 「フィルターをクリア」でフィルターの解除が可能です。

ログファイルリストを出力する対象期間を指定します。

指定した出力対象期間でリストを更新します。

終了時は「終了」をクリックします。

10.4 カスタマーサポート

本ソフトウェアのカスタマーサポートをお受けになるには、有償サポート契約が必要となります。「有償サポートサービス」は、有償のサポートサービスをパッケージ化した商品で、本ソフトウェアと同時にご購入いただくことを推奨します。

◆ ご購入方法

本製品は、富士フィルムビジネスイノベーション販売会社、または富士フィルムビジネスイノベーション特約店よりご購入いただくことができます。

富士フィルムビジネスイノベーション販売会社、または富士フィルムビジネスイノベーション特約店につきましては、富士フィルムビジネスイノベーション株式会社のホームページよりご確認ください。

◆ サービス内容

「有償サポートサービス」をご購入いただいたお客様を対象に、製品に関する下記カスタマーサポートを提供させていただきます。

サポート期間	1年間
サポート形態	電子メールサポート
対応時間	9:00~17:00 ※土・日・祝日・弊社特別休業日を除きます。
サポート内容	<ul style="list-style-type: none">・ アノテーション生成ツール for DocuWorks の設定方法のご質問に対する回答・ アノテーション生成ツール for DocuWorks の仕様や機能のご質問に対する回答・ アノテーション生成ツール for DocuWorks の不具合と疑われるものの原因の特定及び解決策の提供

◆ 注意事項

- ・ サポートのご利用は、電子メールのみで承ります。お電話での対応はお断りしております。
- ・ お問い合わせ時に有償サポートサービス購入時に発行される**サポート番号をご記入の上、メールを送信**してください。サポート番号のないお問い合わせにつきましては、サポート対象外とさせていただきますので予めご了承ください。
- ・ 有償サポートサービスはお客様ごとの「個別修正プログラム」の提供を含んでいません。
- ・ 有償サポート契約終了後、弊社からサポート期間終了の通知は行いません。

【システム障害対応について】

本ソフトウェアのサポートサービスは有償となりますが、システム障害発生時にはサポートサービス未加入の場合でも、下記お問い合わせフォームより障害発生情報の受付を行います。

発生した障害について、操作内容や詳しい現象をお送りいただくことで、次期バージョンに反映させていただきます。また、必要な場合、弊社より折り返しご連絡させていただく場合がございます。

■「下田 OA システム お問い合わせ」ページのご案内

- ① <https://www.shimoda-oa.co.jp/static/contact.html> を開きます。
- ② 画面下部「その他お問い合わせ」の「お問い合わせフォーム」をクリックします。
- ③ お問い合わせフォームが開きますので、必要事項、内容をご入力後送信してください。

10.5 サンプルデータ

インストールディスク内の「sample」フォルダにサンプルデータが付属されています。サンプルは以下1～8フォルダの8種類と複数ページのサンプル(multipage フォルダ)になります。それぞれのサンプルの内容について説明します。

- 1. Text_value 任意の文字列をテキストアノテーションとして貼り付けます。
- 2. Text_csv 任意の CSV ファイルのデータをテキストアノテーションとして貼り付けます。
- 3. Text_dwattr DocuWorks のユーザー定義属性から値を取得してテキストアノテーションとして貼り付けます。
- 4. Text_arg コマンドパラメータから値を取得してテキストアノテーションとして貼り付けます。
- 5. Text_env 環境変数（現在時刻、乱数値）をテキストアノテーションとして貼り付けます。
- 6. QR QR コードをアノテーションとして貼り付けます。
- 7. Barcode バーコードをアノテーションとして貼り付けます。
- 8. Image 画像（.bmp）をアノテーションとして貼り付けます。

multipage

- 1. Text_value_1 1-2 ページ目に任意の文字列をテキストアノテーションとして貼り付けます。
- 2. Text_value_2 2 ページ目に任意の文字列をテキストアノテーションとして貼り付けます。
- 3. Text_value_3 1,3 ページ目に任意の文字列をテキストアノテーションとして貼り付けます。

◆ サンプルデータの実行方法

1. インストールディスク内の「sample」フォルダをお使いのPCにコピーします。
2. 「sample」フォルダの中から使用するサンプルデータフォルダを開きます。
3. フォルダの中にある「定義ファイル.xml」をメモ帳等のテキストエディターで開きます。
4. 開いたファイルの中のすべての「%サンプルフォルダの配置パス%」を1でコピーしたフォルダのパスに書き換えて保存します。

```
定義ファイル.xml - メモ帳
ファイル(E) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)
<?xml version="1.0" encoding="shift_jis"?>
<!--【アノテーション生成ツール for DocuWorks】定義ファイル-->
<Settings>
  <Name>定義ファイル</Name>
  <CSVSettings dataStartRow="1" />
  <DestinationSettings>
    <StorePath>
      <Param type="value">%サンプルフォルダの配置パス%output¥Text_value</Param>
    </StorePath>
    <Overwrite backup="false">>false</Overwrite>
  </DestinationSettings>
  <FileNameSettings>
    <FileName>
      <Param type="value">sample_text_value</Param>
    </FileName>
    <SequenceNumber digit="3" separator="_" />
  </FileNameSettings>
  <AnnotationSettings>
    <Template filepath="%サンプルフォルダの配置パス%¥sample¥1.Text_value¥テンプレートファイル.xdw" margin="0" />
    <Annotation>
      <AnnotName>
        <Param type="value">テキスト</Param>
      </AnnotName>
      <AnnotValue>
        <Param type="value">テキストアノテーション(固定値)サンプル</Param>
      </AnnotValue>
      <AnnotType>Text</AnnotType>
    </Annotation>
  </AnnotationSettings>
</Settings>
```



```
定義ファイル.xml - メモ帳
ファイル(E) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)
<?xml version="1.0" encoding="shift_jis"?>
<!--【アノテーション生成ツール for DocuWorks】定義ファイル-->
<Settings>
  <Name>定義ファイル</Name>
  <CSVSettings dataStartRow="1" />
  <DestinationSettings>
    <StorePath>
      <Param type="value">C:¥Users¥*****¥Desktop¥output¥Text_value</Param>
    </StorePath>
    <Overwrite backup="false">>false</Overwrite>
  </DestinationSettings>
  <FileNameSettings>
    <FileName>
      <Param type="value">sample_text_value</Param>
    </FileName>
    <SequenceNumber digit="3" separator="_" />
  </FileNameSettings>
  <AnnotationSettings>
    <Template filepath="C:¥Users¥*****¥Desktop¥sample¥1.Text_value¥テンプレートファイル.xdw" margin="0" />
    <Annotation>
      <AnnotName>
        <Param type="value">テキスト</Param>
      </AnnotName>
      <AnnotValue>
        <Param type="value">テキストアノテーション(固定値)サンプル</Param>
      </AnnotValue>
      <AnnotType>Text</AnnotType>
    </Annotation>
  </AnnotationSettings>
</Settings>
```

5. 次に、「文書出力.bat」をメモ帳等のテキストエディターで開き、開いたファイルの中のすべての「%サンプルフォルダの配置パス%」を1でコピーしたフォルダのパスに書き換えます。

```

文書出力.bat - メモ帳
ファイル(F) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)
@echo off
setlocal
C:
cd "%アプリケーションのインストールフォルダパス%"
"DWRAnnot.exe" -x "%サンプルフォルダの配置パス%"%sample%1.Text_value%定義ファイル.xml" -f "%サンプルフォルダの配置パス%"%sample%1.Text_value%処理対象ファイル.xdw" -m
echo 戻り値 = %ERRORLEVEL%
endlocal
pause

```



```

文書出力.bat - メモ帳
ファイル(F) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)
@echo off
setlocal
C:
cd "C:\Program Files (x86)\ShimodaOAK\DwAnnotation"
"DWRAnnot.exe" -x "C:\Users\*****\Desktop\%sample%1.Text_value%定義ファイル.xml" -f "C:\Users\*****\Desktop\%sample%1.Text_value%処理対象ファイル.xdw" -m
echo 戻り値 = %ERRORLEVEL%
endlocal
pause

```

6. 同じく「文書出力.bat」内の「%アプリケーションのインストールフォルダパス%」をインストールしたフォルダのパスに書き換えて保存します。

```

文書出力.bat - メモ帳
ファイル(F) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)
@echo off
setlocal
C:
cd "%アプリケーションのインストールフォルダパス%"
"DWRAnnot.exe" -x "%サンプルフォルダの配置パス%"%sample%1.Text_value%定義ファイル.xml" -f "%サンプルフォルダの配置パス%"%sample%1.Text_value%処理対象ファイル.xdw" -m
echo 戻り値 = %ERRORLEVEL%
endlocal
pause

```



「C ドライブ」以外にインストールした場合は、該当のドライブ名に書き換えてください。

```

文書出力.bat - メモ帳
ファイル(F) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)
@echo off
setlocal
C:
cd "C:\Program Files (x86)\ShimodaOAK\DwAnnotation"
"DWRAnnot.exe" -x "C:\Users\*****\Desktop\%sample%1.Text_value%定義ファイル.xml" -f "C:\Users\*****\Desktop\%sample%1.Text_value%処理対象ファイル.xdw" -m
echo 戻り値 = %ERRORLEVEL%
endlocal
pause

```

インストールしたフォルダが「C ドライブ」以外の場合、パスの先頭「C:」部分をご利用のドライブ名に書き換えてご利用ください。

7. 「文書出力.bat」をダブルクリックして実行します。処理が成功すると1で「sample」フォルダをコピーした場所に「output」フォルダが作成され、文書が出力されます。

<ご注意>

- 本書は弊社の許可無く第三者に参照・配布しないようお願いいたします。
- 本製品の一部または、全部を弊社の許可なく複写、複製、配布、転載を行うことは、その形態、理由を問わず禁止いたします。
- 本仕様に関しては、改善のため、変更することがあります。
- 本仕様書の内容に関しては、万全を期しておりますが、万が一、お気づきの点等ありましたら、弊社迄ご連絡ください。

Microsoft、Windows は、 米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標または商標です。

DocuWorks は、富士フイルムビジネスソリューション株式会社の商標です。

記載されている会社及び商品名は、各社の登録商標または商標です。

本書では、登録商標の表記マークを省略して記述しています。

